

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年6月26日

【事業年度】 第50期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 シライ電子工業株式会社

【英訳名】 Shirai Electronics Industrial Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 小谷峰藏

【本店の所在の場所】 京都市右京区梅津南広町46番地2

【電話番号】 075-861-8100(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理担当 福留雅己

【最寄りの連絡場所】 京都市右京区梅津南広町46番地2

【電話番号】 075-861-8100(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営管理担当 福留雅己

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第50期有価証券報告書より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	29,740	29,359	28,042	28,522	28,632
経常利益 (百万円)	1,017	618	505	515	275
親会社株主に帰属する 当期純利益 又は親会社株主に帰属 する当期純損失() (百万円)	703	92	305	54	226
包括利益 (百万円)	666	76	4	273	499
純資産額 (百万円)	3,781	3,600	3,516	3,720	3,150
総資産額 (百万円)	20,990	21,523	20,217	22,253	21,997
1株当たり純資産額 (円)	258.11	248.91	243.79	256.71	215.34
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純 損失() (円)	50.33	6.60	21.83	3.88	16.23
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	17.2	16.2	16.9	16.1	13.7
自己資本利益率 (%)	21.5	2.6	8.9	1.6	
株価収益率 (倍)	4.8	29.5	13.2	144.8	
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,636	1,466	659	601	805
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	252	707	599	1,402	1,735
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	920	645	1,089	994	425
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	2,093	3,500	2,283	2,436	1,863
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (名)	1,726 (114)	1,684 (112)	1,699 (93)	1,670 (92)	1,565 (124)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第46期、第47期、第48期及び第49期は潜在株式が存在しないため、第50期は1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第50期の自己資本利益率及び株価収益率については、親会社株主に帰属する当期純損失のため記載しておりません。

4 平均臨時雇用者数には、パートタイマー(アルバイト)、契約社員及び人材派遣人員を含んでおります。

5 海外連結子会社の従業員数は、海外連結子会社の事業年度末(12月31日)現在で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
売上高 (百万円)	12,461	12,855	12,060	12,260	12,746
経常利益 又は経常損失 () (百万円)	415	9	38	136	124
当期純利益 又は当期純損失 () (百万円)	184	57	2	428	296
資本金 (百万円)	1,361	1,361	1,361	1,361	1,361
発行済株式総数 (株)	13,976,000	13,976,000	13,976,000	13,976,000	13,976,000
純資産額 (百万円)	4,689	4,536	4,496	4,024	3,617
総資産額 (百万円)	12,003	11,743	11,781	13,085	12,974
1株当たり純資産額 (円)	335.60	324.66	321.73	287.97	258.87
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	5 ()	5 ()	5 ()	5 ()	5 ()
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純 損失 () (円)	13.17	4.13	0.15	30.68	21.23
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	39.1	38.6	38.2	30.8	27.9
自己資本利益率 (%)	4.0		0.0		
株価収益率 (倍)	18.5		1,926.7		
配当性向 (%)	38.0		3,333.3		
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (名)	453 (61)	452 (59)	459 (47)	464 (50)	473 (53)
株主総利回り (比較指標：JASDAQ INDEX スタンダード) (%)	89.9 (117.2)	74.0 (116.1)	109.7 (141.9)	210.1 (187.7)	144.4 (163.8)
最高株価 (円)	333	323	475	920	640
最低株価 (円)	167	148	148	224	216

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第46期及び第48期は潜在株式が存在しないため、第47期、第49期及び第50期は1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 第47期、第49期及び第50期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。
4 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所（JASDAQ スタンダード）におけるものであります。
5 平均臨時雇用者数には、パートタイマー及び人材派遣人員を含んでおります。

2 【沿革】

シライ電子工業株式会社設立以後の事業内容の変遷は、次のとおりであります。

年月	概要
1970年1月	プリント配線板事業拡大を目的として京都市右京区梅津にシライ電子工業株式会社を設立。
1971年1月	京都市右京区太秦に両面プリント配線板の製造を目的に京都工場を設置すると共に本社を移転。 (現 太秦工場)
1976年7月	滋賀県野洲郡野洲町(現 野洲市)にプレス加工を目的に滋賀工場を設置。(現 富波工場)
1981年1月	京都市右京区にプリント配線板の設計を目的にCADルームを設置。(現 本社)
1984年10月	京都市右京区に日進サーキット株式会社及び滋賀県野洲郡野洲町(現 野洲市)にシライハイテク工業株式会社を設立。(1990年4月、当社により両会社とも吸収合併。)
1984年12月	滋賀工場を増築し両面プリント配線板の量産体制を確立。
1985年10月	本社を京都市右京区西京極に移転すると共に京都工場に積層プレス機を設置し多層プリント配線板事業に参入。
1986年4月	京都市右京区に株式会社シライサービスセンターを設立。(現 白井商事株式会社)
1988年10月	プレス加工業の株式会社近江ファスナー(シライハイテク工業株式会社の外注先)と両社折半の出資によるジョイントベンチャー オーミハイテク株式会社を滋賀県野洲郡中主町(現 野洲市)に設立。
1989年9月	株式会社シライサービスセンターを100%子会社化。
1990年1月	高密度プリント配線板製造を目的に滋賀県野洲郡野洲町(現 野洲市)三上工業団地内に三上工場設置。
1992年4月	株式会社シライサービスセンターをシライ物流サービス株式会社に商号変更。 (現 白井商事株式会社)
1992年10月	グローリア電子工業株式会社とプリント配線板製造及び販売についての業務提携を実施。
1994年3月	香港・中国地域でのプリント配線板の販売を目的に白井電子(香港)有限公司を香港九龍に設立。 (1998年4月清算)
1994年4月	滋賀県守山市にNC穴明専門工場として野洲第2工場(現 守山工場)設置。 グローリア電子工業株式会社が実施した増資を全額引受け子会社化。
1997年1月	中国広東省深セン市宝安区沙井鎮沙頭村とNC穴明加工に関する委託生産契約(来料加工)を締結。(2010年9月契約解消)
1997年3月	香港・中国地域でのプリント配線板の穴明加工を目的に白井電子科技(香港)有限公司を香港九龍に設立。
1999年8月	グローリア電子工業株式会社を100%子会社化。(2014年3月当社により吸収合併)
2000年1月	株式会社宏栄工務店の全株式を引受け100%子会社化、商号を株式会社エス・ディ運送に変更。
2000年4月	株式会社エス・ディ運送はシライ物流サービス株式会社より「運送業及び損害保険代理店業務」の営業権を譲受。シライ物流サービス株式会社をシライ商事株式会社(現 白井商事株式会社)、株式会社エス・ディ運送をシライ物流サービス株式会社に商号変更。
2002年3月	プリント配線板外観検査機の事業を開始。
2002年8月	白井電子科技(香港)有限公司のプリント配線板生産委託先である科恵線路有限公司とプリント配線板製造に係る合弁契約を締結、科恵白井電路有限公司を香港に設立、科恵白井(佛岡)電路有限公司を中国に設立。
2006年3月	ジャスダック証券取引所に上場。
2006年10月	米国カリフォルニア州アーバイン市にプリント配線板の販売を目的に白井電子科技(香港)有限公司の100%子会社 Shirai Electronics Technology America, Inc. を設立。(2009年3月休眠会社化、2010年12月清算)
2007年1月	中国広東省珠海市にプリント配線板の製造を目的に白井電子科技(香港)有限公司の100%子会社白井電子科技(珠海)有限公司を設立。
2007年6月	中国上海市にプリント配線板の販売を目的に白井電子科技(香港)有限公司の100%子会社 白井電子商貿(上海)有限公司を設立。
2008年9月	中国広東省深セン市にプリント配線板の販売を目的に白井電子科技(香港)有限公司の100%子会社 白井電子商貿(深セン)有限公司を設立。
2009年8月	本社を京都市右京区西京極から京都市右京区梅津(旧CADセンター)に移転。 白井電子科技(珠海)有限公司の第一期工事が完成し、生産を開始。
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に上場。
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場。
2014年3月	100%子会社のグローリア電子工業株式会社を吸収合併。
2015年3月	タイ バンコクにプリント配線板の販売を目的に白井電子科技(香港)有限公司がShirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd. を設立。(出資比率49%)
2016年3月	オーミハイテク株式会社の株式20%を追加取得し、出資比率を70%とする。
2018年1月	プリント配線板製造を目的に滋賀県野洲市の三上工場敷地内に新棟を設置し三上事業所とする。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社7社(白井電子科技(香港)有限公司・白井電子科技(珠海)有限公司・白井電子商貿(上海)有限公司・白井電子商貿(深セン)有限公司・Shirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd.・オーミハイテク株式会社・シライ物流サービス株式会社)、関連会社1社(科恵白井電路有限公司)で構成されております。

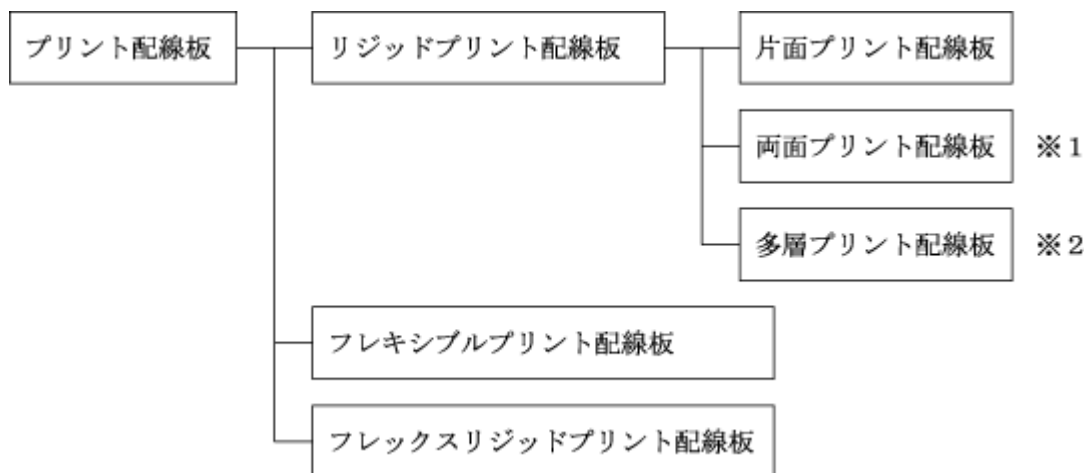
プリント配線板の設計・製造・販売を主な事業内容としているほか、プリント配線板外観検査機及び各種ソリューションビジネス商品の開発・販売、並びに運送業、業務請負を営んでおります。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付け並びにセグメント及び品目との関連は次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分であります。

A プリント配線板事業

当社の主力事業であり、関係会社では白井電子科技(香港)有限公司・白井電子科技(珠海)有限公司・白井電子商貿(上海)有限公司・白井電子商貿(深セン)有限公司・Shirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd.・オーミハイテク株式会社・科恵白井電路有限公司も主力事業をしております。

< プリント配線板の分類 >



当社グループは、プリント配線板のなかで、リジッドプリント配線板の両面・多層プリント配線板の分野を中心に事業を行っております。

1〔両面プリント配線板〕

代表的なものとしたしましては、絶縁コア材(ガラスクロスにエポキシ樹脂を含浸)の表裏に導電性のビア形成(銅箔・銅メッキ)でつないだ配線板であり、プリント配線板の基礎技術となっているもので品質信頼性の高いことが特徴であります。

2〔多層プリント配線板〕

両面プリント配線板の応用で表裏導体層を含め内層にも導体層を施し、3層以上で構成された積層板であり、4層～8層が民生機器分野・産業機器分野と幅広く使用されています。

昨今、プリント配線板は、自動車の電装化の加速に伴い、電気自動車やハイブリットカーへの電装品や、IoTにおける物をネットワークに接続するためのモジュールへの使用等により、より安全で高品質な物が求められています。当社グループでは、これらに対応した両面・多層のリジッド配線板をはじめ、折り曲げ可能な薄板リジッド配線板、高密度回路に対応したIVHプリント配線板、放熱特性に優れたアルミベース基板、発熱の大きい部品に対応できる銅ピン挿入基板及び新たな用途を開拓する透明フレキシブル基板（SPETシリーズ）等を製造販売しております。

お客様の海外生産が加速されるなか、特に日系企業の中国進出での現地調達においては、白井電子科技(香港)有限公司を中心に中国深セン及び上海に販社を設立した中国展開の強みを活かし、白井電子科技(珠海)有限公司及び生産委託先からの調達を実施しております。また、東南アジアでの市場を開拓すべく、タイのバンコクに販社を設立しております。日本国内での低価格を意識した海外調達においては、国内調達部門が白井電子科技(珠海)有限公司からの調達を中心に展開しお客様のニーズにお応えしております。

国内では、量的な対応としては試作から量産リピート品（少量から中量）を最適な納期でお届けし、品質的には高信頼性のものづくりを徹底し、国内ならではのサービスをお客様ごとに提供できる体制をとっております。

その営業拠点といたしましては、営業本部(滋賀県野洲市)・東京支店(東京都港区)・中部営業所(愛知県刈谷市)・九州営業所(長崎県大村市)・P板開発サービス本部(埼玉県川越市)の5拠点にて展開しております。

使用用途例

カーエレクトロニクス関連	デジタル家電関連	電子応用関連	ホームアプライアンス、 通信・事務機器関連
自動車 ・衝突防止センサー ・エンジン コントロール ユニット ・空気圧センサー ・メーターパネル 等	AV機器 ・4K/8Kテレビ ・ブルーレイディスク プレーヤー ・デジタルビデオカメラ ・デジタルスチルカメラ 等	制御機器 ・スマートメーター ・ビル管理システム ・LED照明 ・大型表示装置 等	白物家電・通信機器 ・エアコン ・給湯器 ・冷蔵庫 ・複合機 ・プリンター 等

B 検査機・ソリューション事業

当社がプリント配線板外観検査機の開発、販売を担当しております。様々な種類やサイズのプリント配線板(実装前ペアボード)について、従来の目視検査ではなく、高速、高性能で外観検査が可能な検査機の開発・販売をしております。

当社のプリント配線板外観検査機は、「VISPER」として商標登録しております。

なお、主力となります主な機種及び特徴は次のとおりであります。

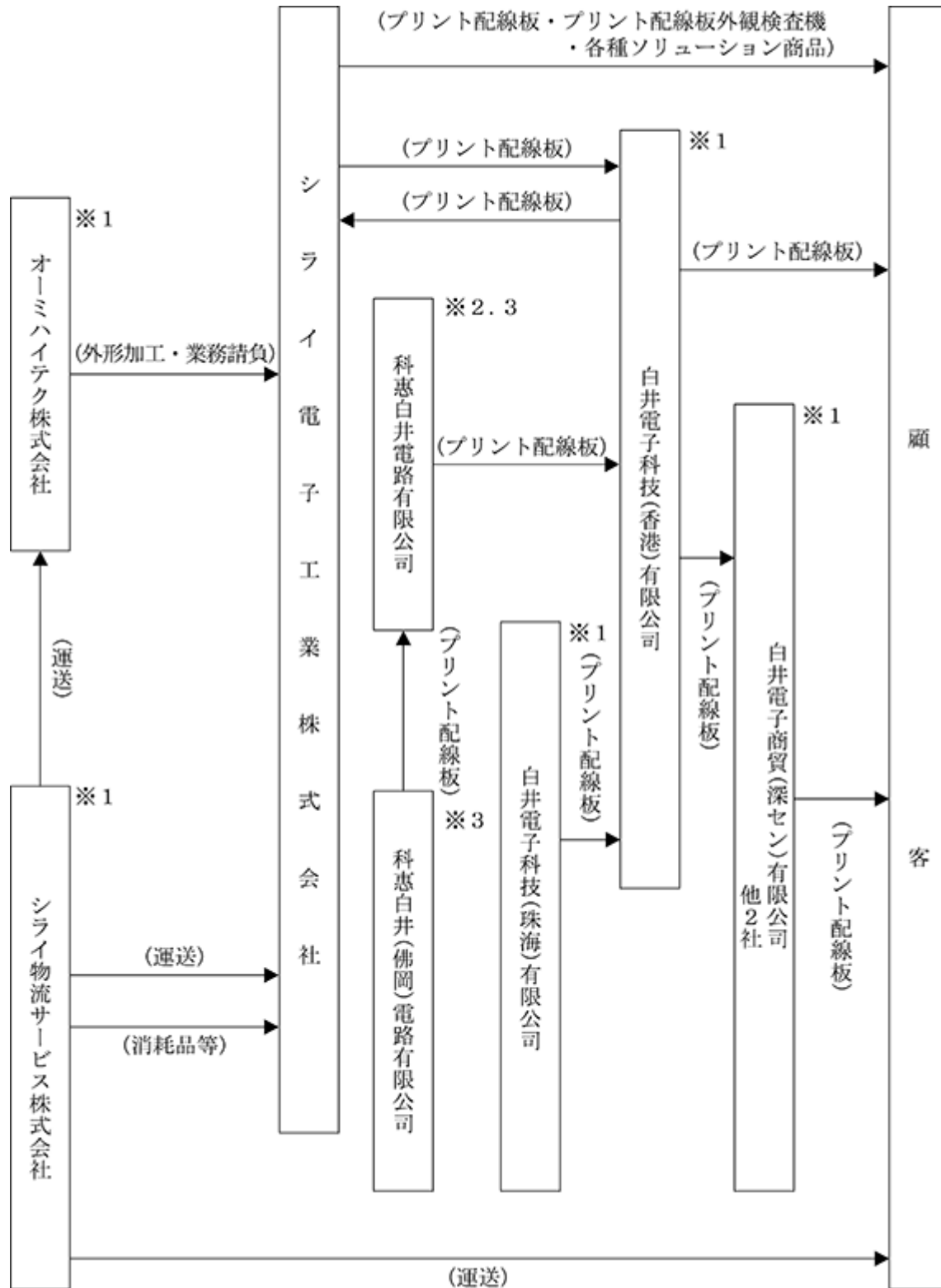
- ・VISPER710SLWZ 標準密度・精度のプリント配線板用検査機（全自動両面同時検査タイプ）
- ・VISPER730STWZ 大きなサイズのプリント配線板用検査機（全自動両面同時検査タイプ）
- ・VISPER810FCWZ/810SUWZ ... バキュームテーブルとゴミ取り機構を備えたハイエンド基板向けプリント配線板用検査機（高分解能・全自動両面検査タイプ）
- ・VISPER360CLWZ ワークサイズや、大きなサイズのプリント配線板用検査機（手動片面検査タイプ）

また、プリント配線板メーカーの生産性向上につながる各種ソリューションビジネス商品の開発・販売をしております。

C その他

当社子会社のシライ物流サービス株式会社が、当社グループ間のメール便や定期便をはじめ近畿地区を中心に中部・北陸地区の運輸・運送、軽貨物便サービスの運送業を担当しております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



1 連結対象会社

2 持分法適用会社

3 科惠白井(佛岡)電路有限公司は、科惠白井電路有限公司の100%製造子会社であります。

なお、科惠白井(佛岡)電路有限公司が当社の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすため、持分法による投資損益の計算には、科惠白井(佛岡)電路有限公司の損益を科惠白井電路有限公司の損益に含めております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 〔被所有〕割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
白井電子科技(香港)有限公司 (注) 3. 6	香港九龍	152,823 千HKD	プリント配線 板事業	100.0	当社プリント配線板を生産 委託しております。 資金援助 債務保証 役員の兼任 3名 出向契約による出向
シライ物流サービス株式会社	滋賀県野洲市	50	その他	100.0	当社の物流管理をしており ます。 資金援助 役員の兼任 2名
オーミハイテック株式会社	滋賀県野洲市	80	プリント配線 板事業	70.0	当社プリント配線板の一部 工程を外注及び業務請負を しております。 資金援助 役員の兼任 3名 出向契約による出向
白井電子科技(珠海)有限公司 (注) 3	中国広東省珠海市	326,899 千HKD	プリント配線 板事業	100.0 (100.0)	債務保証 役員の兼任 3名 出向契約による出向
白井電子商貿(上海)有限公司	中国上海市	200 千USD	プリント配線 板事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 2名 出向契約による出向
白井電子商貿(深セン)有限公司	中国広東省深セン市	200 千USD	プリント配線 板事業	100.0 (100.0)	役員の兼任 2名 出向契約による出向
Shirai Electronics Trading (Thailand) Co.,Ltd. (注) 4	タイ バンコク市	6,000 千THB	プリント配線 板事業	49.0 (49.0)	債務保証 役員の兼任 2名 出向契約による出向
(持分法適用関連会社)					
科恵白井電路有限公司 (注) 5	香港新界沙田	139,000 千HKD	プリント配線 板事業	30.0	役員の兼任 2名

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 議決権の所有〔被所有〕割合欄の(内書)は間接所有であります。

3 特定子会社に該当しております。

4 支配力基準により、連結子会社に含まれております。

5 持分法適用会社である科恵白井電路有限公司の100%製造子会社の科恵白井(佛岡)電路有限公司が、当社の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすため、持分法による投資損益の計算には、科恵白井(佛岡)電路有限公司の損益を科恵白井電路有限公司の損益に含めております。

6 白井電子科技(香港)有限公司については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。なお、当該会社の事業年度末(12月31日)現在で記載しております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	16,097百万円
	(2) 経常損失	4百万円
	(3) 当期純損失	4百万円
	(4) 純資産額	2,453百万円
	(5) 総資産額	9,320百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2019年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
プリント配線板事業	1,370 (109)
検査機・ソリューション事業	22 (6)
報告セグメント計	1,392 (115)
その他	16 (5)
全社(共通)	157 (4)
合計	1,565 (124)

- (注) 1 従業員数は、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。
- 2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の事業に区分できない管理部門に所属しているものであります。
- 3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 4 臨時従業員には、パートタイマー(アルバイト)、契約社員及び人材派遣人員を含んでおります。
- 5 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業を含んでおります。

(2) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
473 (53)	41.9	16.2	5,210

セグメントの名称	従業員数(名)
プリント配線板事業	399 (45)
検査機・ソリューション事業	22 (6)
報告セグメント計	421 (51)
全社(共通)	52 (2)
合計	473 (53)

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
- 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 3 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の事業に区分できない管理部門に所属しているものであります。
- 4 臨時従業員には、パートタイマー及び人材派遣人員を含んでおります。
- 5 平均年間給与は、臨時従業員を除いた12か月以上の在籍実績がある従業員が対象であり、賞与及び基準外賃金を含む、課税支給額の合計の平均であります。

(3) 労働組合の状況

シライ電子工業株式会社には、従業員によって、シライ電子工業株式会社翔雷会及びシライ電子工業PDS労働組合が組成されております。シライ電子工業株式会社翔雷会は、1992年1月に結成され、現在はユニオンショップ制となっております。なお、上部団体には加盟しておりません。シライ電子工業PDS労働組合は、2014年3月1日を効力発生日として当社が吸収合併を行った連結子会社にて組成されていた組合であり、JAM北関東に加盟しております。

2019年3月31日現在、当社従業員のうち組合員数は、シライ電子工業株式会社翔雷会280名、シライ電子工業PDS労働組合25名であります。

また、当社の連結子会社でありますシライ物流サービス株式会社には、シライ物流サービス株式会社創新会が組成されております。

なお、会社と相互信頼、尊重により共存共栄を基本に活動しておりますので、特筆すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「一人ひとりが志をもって努力することで自らを高め、その力を結集して、はるかな未来を拓き、社会とお客様に貢献し、会社の繁栄と個々の生活の向上を目指そう。」を経営理念とし、経営活動を進めております。

この経営理念のもと「両面・多層プリント配線板」の設計・製造・販売を主力事業として国内外に営業・生産拠点を配置し、また関連する事業としてプリント配線板の外観検査機及び各種ソリューションビジネス商品の開発・販売活動を行なうなど、自社の成長・発展だけでなく業界の発展やより広く社会に貢献するための諸施策を積極的に展開してまいりました。

今後も、これらのビジネスモデルの有効活用と進化で、お客様へ独自性のある優れた製品とサービスの提供を行い、企業競争力の強化・収益性の改善を図るとともに、つねに経営の原点を「人」におき、社会から信頼されるバランスのとれた経営活動の実践と持続的な成長を目指し、取り組みを進めてまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社は、安定的経営を重視し、事業活動の維持・発展に必要な収益を確保することを経営の重要課題と考えており、その経営指標として本業での収益性を示す売上高営業利益率を重視し、売上高営業利益率を5%以上確保することを目標としております。

当連結会計年度における売上高営業利益率は、前連結会計年度の1.5%から1.3%に下降し、目標達成には至りませんでした。今後、目標とする経営指標の達成に向け、より国内外連携を取った販売、生産、管理体制の強化を図り、また、新基板・新技術の開発等の取り組みにより、更なる収益力の向上に取り組んでまいります。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

世界の経済情勢は、米中貿易摩擦の今後の進捗如何によっては、世界経済全体に悪影響を及ぼす可能性を示しており、先行きの不透明感が増しております。当社の所属するプリント配線板業界におきましては、国内外での競争が一段と激化しており、加えて原材料価格の高止まりによる製造原価への対応、取引先の求める高い品質への対応など、これら様々な課題への対応如何により、企業各社の優勝劣敗が一段と鮮明になることが予想されます。

このような状況のなか、当社は「『品質』で、社会に貢献する」を経営方針に掲げ、更なる品質の向上と事業環境の変化に適応できる徹底した経営改革の取り組みを推進するとともに、独自性のある、優れた製品とサービスの提供を行い、グローバルな事業ネットワークの更なる強化とプリント配線板事業及び検査機・ソリューション事業の二本柱を持つグループの強みを活かした事業活動を展開し、新たな市場の開拓・顧客創造を進めてまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

プリント配線板業界におきましては、電子機器製品における製品ライフサイクルの短縮化、取引先の海外生産移管への対応や当該事象に伴う国内市場の縮小、取引先から求められるコストダウン要求や高い品質への対応等、様々な課題に直面しております。

このような状況のなか、当社グループでは、国内・海外を問わずお客様の多様なニーズに対応できるグローバルな営業、生産体制を強化し、経営活動の効率化の推進や、強固な企業体質の構築に向けた取り組みを継続してまいります。

まず、プリント配線板事業におきましては、エコカーや自動運転技術の登場によりますます電装化が進展しているカーエレクトロニクス関連やあらゆるものがインターネットに繋がることで新たな価値やサービスが創出されるIoT分野での成長が期待される電子応用関連を中心に販売活動を展開し、その他、ホームアプライアンス関連・通信事務機器関連・アミューズメント関連・デジタル家電関連等を加えた6分野においてお客様の多様なニーズに対応し、一層の受注拡大を図ります。

また、付加価値の高い製品群の販売比率の拡大、自動車電装品が要求する高度な品質レベルに対応できる生産及び品質保証体制の強化、競争力のある製造原価の追求、少量多品種品や試作短納期品の生産体制の強化、国内外でのプリント配線板の生産及び供給体制の増強、透明基板のコア技術による当社独自基板の開発等により、事業収益の拡大に努めてまいります。

検査機・ソリューション事業におきましては、更なる検査性能の向上と用途別ラインナップの充実を図ることで利用範囲の拡大を促進するとともに、ニーズに合わせた国内外販売戦略の強化、プリント配線板メーカーの生産性向上につながるソリューション提案の拡充や新商品の開発を進めてまいります。

これらの取組みにより経営目標の達成を図るとともに、更なる収益力の向上と財務体質の改善に努め、当社グループの企業価値を高めてまいります。

(免責・注意事項)

記載しております当社の現在の経営指標、経営戦略等は将来の実績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、一般的経済状況、製品需給や市場価格の状況、市場での競争の状況、為替の変動等さまざまな要因により、これら見通しと大きく異なる結果となることがあり得ます。

従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんので、ご承知おきください。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した当社グループの事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 主要顧客の業界動向等による影響について

当社グループの供給するプリント配線板は、電気製品の中核機能を構成するひとつの部品であり単体では機能いたしません。従いましてプリント配線板の販売動向は、顧客の最終製品の生産台数に強く影響されるものであります。当社の主な顧客は、カーエレクトロニクス・ホームアプライアンス・電子応用機器・通信事務機器・デジタル家電・アミューズメント等、広範囲にわたりますが、各顧客の戦略や景気後退等により顧客の最終製品の需要が変動した場合には、当社グループの業績及び財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。また、顧客の最終製品の市場価格下落に伴い、顧客からの値下げ要請や競合他社との価格競争に追い込まれることによって、当社グループの売価に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 海外での事業展開による影響について

当社グループにとって重要となる海外事業における生産及び販売活動の拠点を中国・香港に置いていること、また中国に生産拠点を置く委託外注先との良好な関係を維持することにより海外事業が成立していることから、以下に挙げるようなリスクが内在しております。

- (イ) 政情不安、反日感情及び治安の悪化
- (ロ) 予期しない法規制及び税制の変更若しくは導入、移転価格税制等の国際税務リスク
- (ハ) 電力、水道、輸送及び衛生面におけるインフラ面の未整備
- (ニ) 委託外注先の経営層の交代又は株主構成の変更等に伴うトップ方針の変更
- (ホ) 予想を超える人件費の急激な高騰

これらのリスクが顕在化した場合には、安定した生産活動の継続、また委託外注先からの製品供給等に支障をきたす恐れがあり、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 商品市場性に関する影響について

当社グループの主力製品は国内市場・海外市場ともに「両面・多層プリント配線板」であり、顧客の商品需要動向によって国内又は海外市場のどちらかが極端に縮小した場合、当社グループにおける業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 技術革新に対する影響について

プリント配線板の既存製品の機能に対して、さらに先進的な製品が技術革新によって開発され、当社グループがそれに対応できない場合、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 製品の欠陥に関する影響について

当社グループのプリント配線板は、各セットメーカーにおいて最終製品に組み込まれております。万が一、大規模なリコールや、製造物責任賠償等が発生する事態に至った場合には、多額の負担を強いられる可能性があります。

(6) 生産能力による影響について

国内外の顧客からの急激な受注増加があった場合、委託外注先の加工価格が上昇したり委託外注先を十分に確保できなくなった場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 原材料の値上がり等の影響について

プリント配線板の主たる原材料である銅張積層板は、銅箔、ガラスクロス、樹脂により生産されているため、銅箔については世界的な銅相場、また樹脂については原油価格の動向如何では、原材料価格の高騰を引き起こす場合があります、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 地震等自然災害の影響について

大震災等の自然災害に対する対策は講じてはおりますが、当社グループの生産設備が損害を被る危険性があります。こうした自然災害等により、お客様の被害状況による影響はもとより、当社グループの設備のいずれかに壊滅的な損害を被った場合、また外注先における被害の発生や原材料及び副資材品等の調達が困難となり、長期に生産活動が停止した場合には、売上の減少、損壊した設備の復旧又は交換に多額の費用がかかる恐れがあり、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 為替変動の影響について

当社グループは国際的な事業活動により売上の重要な割合を稼得しており、またグループ間で海外子会社に対し貸付けを行っていることから、結果として当社グループの経営成績及び財政状況は外貨に対する円の価値変動により影響を受けております。今後も引き続き影響を受ける可能性があり、為替変動に対するリスクヘッジは講じておりますが、完全に回避できる保証はありません。当社グループが事業を行なう地域の通貨上昇は製造コストを増加させる可能性があり、また当社グループが連結財務諸表を作成するにあたっては、在外子会社の現地通貨建て財務諸表を本邦通貨に換算するため、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 環境リスクについて

当社グループは、環境リスクに対しまして予防の大切さを認識し、環境マネジメントシステムISO14001の運用を通じてリスクの低減を図っておりますが、自然災害等の不測の事態等があった場合、近隣に環境汚染を発生させる可能性があります。また近年においては、大気汚染、土壌汚染、水質汚濁、有害物質、廃棄物処理、製品リサイクル等の環境に関する規制が強化される傾向にあり、場合によっては当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 資金調達による影響について

当社グループが事業を展開するために必要な資金の調達コストは、金利の上昇や当社グループの信用力の低下等により調達コストが増加した場合、収益性が悪化する可能性があり、また有利子負債の一括返済を求められた場合、財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(12) 財務制限条項について

当社は取引銀行4行とシンジケート方式によるコミットメント付タームローン契約を締結しておりますが、市場環境の悪化による商品需要の縮小や原材料の値上がりなどにより業績が悪化した場合、以下の財務制限条項に抵触する恐れがあります。

- ・各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。
- ・各年度の決算期における連結の損益計算書に示される当期経常損益から営業外収益及び営業外費用に計上される為替差損益を控除した金額が2期連続して損失とならないようにする。

連結子会社は取引銀行3行とタームローン契約を締結しておりますが、市場環境の悪化による商品需要の縮小や原材料の値上がりなどにより業績が悪化した場合、以下の財務制限条項に抵触する恐れがあります。

- ・各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における修正純資産金額を前年同期の純資産の部の金額比75%以上に維持する。なお、修正純資産金額とは、ある特定の事業年度末日における連結の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額から、当該事業年度の末日における連結の損益計算書の営業外利益に記載される為替差益を減算し、営業外損失に記載される為替差損を加算して算出される金額をいう。
- ・各年度の決算期における連結の損益計算書に示される修正経常損益が2期連続して損失とならないようにする。なお、修正経常損益とは、ある特定の事業年度末日における連結の損益計算書に記載される経常損益の金額から、当該事業年度の末日における連結の損益計算書の営業外利益に記載される為替差益を減算し、営業外損失に記載される為替差損を加算して算出される金額をいう。

(13) 減損損失の計上について

当社グループでは、現在、減損の兆候がある資産グループが存在しますが、将来キャッシュ・フローにより回収可能であるため、減損損失の認識は必要ないと判断しております。但し、将来キャッシュ・フローが計画通り達成できない場合は減損損失を認識するため、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。また当社グループは所有する固定資産について「固定資産の減損に係る会計基準」を適用しておりますが、外部環境の変化等により収益性が著しく低下した場合、当社グループが保有する資産等について減損損失を計上する可能性があります。当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 知的財産について

当社グループは、技術研究開発等により得られた成果について、特許、商標及びその他の知的財産権等により当該技術の保護を図っております。しかしながら、特定の地域においては知的財産権による保護が十分でなく、第三者が当社グループの知的財産を使用し類似製品を製造するのを効果的に防止出来ない可能性があります。その場合、当社グループの製品のブランド価値が低下したり、市場シェアを維持できなくなる可能性があります。また当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における世界の経済情勢は、米国経済は引き続き堅調に推移いたしました。欧州におきましては、英国や仏国の政治不安の影響から成長ペースが鈍化し、また中国におきましては、年度後半にかけて米国との貿易摩擦の影響による景気の減速感が顕在化するなど、全体としては先行きの不透明感が強まりました。

わが国経済におきましては、企業収益や雇用・所得環境の改善が継続し、緩やかな景気拡大基調を維持しているものの、不安定な海外情勢の影響により、景気の下振れに注意が必要な状態となりました。

プリント配線板業界におきましては、技術革新の進展に伴い新技術や新製品の開発が進み、カーエレクトロニクス関連市場やIoT関連市場を中心に市場は拡大傾向にあります。しかしながら、銅を中心とした原材料価格の高止まりが収益に影響し、また企業の海外生産シフトの影響による国内市場の縮小化や競争激化は継続しており、業界全体としては厳しい状況が続いております。

このような状況のなか当社グループは、プリント配線板事業におきましては、市場が拡大するカーエレクトロニクス関連の受注は堅調に推移し、健康機器・産業機器向け等の電子応用関連の受注も好調に推移いたしました。価格競争が厳しい通信・事務機器関連におきましては選別受注を実施したことから受注が減少いたしました。生産活動では「『品質』で、社会に貢献する」を経営方針とし、更なる品質力及び製造力の強化に取り組みました。新基板の開発につきましては、配線を目で見ることができない透明フレキシブル基板（SPET-MM）や、直ぐに暖まる車載向け透明ヒーターフィルムの販売を当連結会計年度より開始し、主にカーエレクトロニクスの市場を拡大すべく取り組みました。検査機・ソリューション事業につきましては、プリント配線板外観検査機（VISPERシリーズ）は海外市場を中心に販売活動を展開し、また各種ソリューションビジネス商品は取り扱いラインナップを更に充実して、国内市場を中心に販売数を伸ばしました。

この結果、当連結会計年度における売上高は28,632百万円となり、前連結会計年度に比べ110百万円（0.4%）の増収となりました。

営業損益につきましては、売上高は増収となったものの、原材料価格高騰の影響や製品仕入高の増加により製造原価率が上昇した結果、362百万円の営業利益となり前連結会計年度に比べ75百万円（17.3%）の減益となりました。

経常損益につきましては、持分法による投資利益は増加したものの、営業利益が減益となったことや為替相場の変動に伴い前年同期に発生した為替差益が為替差損に転換した結果、275百万円の経常利益となり、前連結会計年度に比べ239百万円（46.5%）の減益となりました。

親会社株主に帰属する当期純損益につきましては、経常利益が減益となったこと、また過年度法人税等の計上や当連結会計年度も繰延税金資産の一部を取り崩すことになった結果、前年同期比では281百万円減益となる226百万円の親会社株主に帰属する当期純損失となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。なお、セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高が含まれております。

（プリント配線板事業）

プリント配線板事業につきましては、カーエレクトロニクス関連の受注は堅調に推移し、電子応用関連の受注も好調に推移いたしました。価格競争が厳しい通信・事務機器関連におきましては選別受注を実施したことから受注が減少した結果、売上高は27,571百万円となり、前連結会計年度に比べ31百万円（0.1%）の増収となりました。損益面につきましては、売上高は増収となったものの、年度前半にかけてUSドルに対する中国元のレートが元高で推移したことに加え、原材料価格の高騰の影響、製品仕入高の増加等により製造原価率が上昇した結果、308百万円の営業利益となり、前連結会計年度に比べ50百万円（14.0%）の減益となりました。

(検査機・ソリューション事業)

検査機・ソリューション事業につきましては、各種ソリューションビジネス商品が国内市場を中心に売り上げが伸びた結果、売上高は1,026百万円となり、前連結会計年度に比べ94百万円(10.2%)の増収となりました。損益面につきましては、売上高は増収となったもののプリント配線板外觀検査機が海外での価格競争激化の影響で利益率が低下した結果、81百万円の営業利益となり、前連結会計年度に比べ3百万円(3.8%)の減益となりました。

また、財政状態につきましては次のとおりであります。

(資産)

当連結会計年度末の資産合計は、21,997百万円(前連結会計年度末比256百万円減)となりました。その内訳は、流動資産が12,140百万円(前連結会計年度末比119百万円減)、固定資産が9,856百万円(前連結会計年度末比136百万円減)であり、主な増減要因は次のとおりであります。

流動資産につきましては、受取手形及び売掛金が56百万円、電子記録債権が63百万円、製品が334百万円、仕掛品が78百万円増加いたしました。現金及び預金が573百万円減少したことによるものであります。固定資産につきましては、無形固定資産が51百万円、投資その他の資産が81百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末の負債合計は、18,846百万円(前連結会計年度末比313百万円増)となりました。その内訳は、流動負債が13,525百万円(前連結会計年度末比96百万円増)、固定負債が5,320百万円(前連結会計年度末比216百万円増)であり、主な増減要因は次のとおりであります。

流動負債につきましては、支払手形及び買掛金が127百万円、その他が553百万円減少いたしました。電子記録債務が355百万円、短期借入金が433百万円増加したことによるものであります。固定負債につきましては、退職給付に係る負債が25百万円、その他が80百万円減少しましたが、長期借入金が347百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末の純資産合計は、3,150百万円(前連結会計年度末比569百万円減)となりました。主な増減要因は、利益剰余金が296百万円、為替換算調整勘定が235百万円減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の期末残高は1,863百万円となり、前連結会計年度末と比べて573百万円減少いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは805百万円の獲得となり、前連結会計年度末と比べて204百万円の獲得増加となりました。その主な増減要因は、当連結会計年度は、税金等調整前当期純利益が223百万円減益となりましたが、仕入債務の増減額が448百万円増加したことや、売上債権の増減額が221百万円減少したことにより、資金流出が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度末における投資活動によるキャッシュ・フローは1,735百万円の流出となり、前連結会計年度末と比べて333百万円の流出増加となりました。その主な増減要因は、当連結会計年度では、有形固定資産の取得による支出が320百万円増加したことや、補助金の受取額が29百万円減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度末における財務活動によるキャッシュ・フローは425百万円の獲得となり、前連結会計年度末と比べて568百万円の獲得減少となりました。その主な増減要因は、当連結会計年度では、短期借入金の純増減額が394百万円増加しましたが、長期借入れによる収入が571百万円減少したことや、長期借入金の返済による支出が200百万円増加したことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度におけるプリント配線板事業の生産実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	生産高(百万円)	前年同期比(%)
片面プリント配線板	155	97.8
両面プリント配線板	15,432	134.2
多層プリント配線板	9,230	109.4
合計	24,818	123.5

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 「検査機・ソリューション事業」については、社内生産を行っていないため記載を省略しております。

b. 受注実績

当連結会計年度におけるプリント配線板事業の受注実績を品目別に示すと、次のとおりであります。

品目別	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)			
	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
片面プリント配線板	155	79.5	9	57.5
両面プリント配線板	14,575	100.2	1,646	91.8
多層プリント配線板	10,466	97.8	1,128	83.3
その他	1,307	99.4	84	154.3
合計	26,505	99.0	2,869	89.1

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 「その他」の欄には、「プリント配線板事業」における片面・両面・多層プリント配線板以外の品目が含まれております。
 4 受注実績においては、「プリント配線板事業」が大部分を占めるため、「検査機・ソリューション事業」についての記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
	販売高(百万円)	前年同期比(%)
プリント配線板事業		
片面プリント配線板	162	81.7
両面プリント配線板	14,722	100.8
多層プリント配線板	10,692	98.6
その他	1,993	105.6
計	27,571	100.1
検査機・ソリューション事業	955	106.9
その他	104	118.9
合計	28,632	100.4

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 「プリント配線板事業」については、品目別に示しております。
 4 プリント配線板事業「その他」の欄には、「プリント配線板事業」における片面・両面・多層プリント配線板以外の品目が含まれております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて実施しております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）4 会計方針に関する事項」に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(売上高)

当連結会計年度の経営成績は、当社主力のプリント配線板事業において、市場が拡大するカーエレクトロニクス関連の受注は堅調に推移し、健康機器・産業機器向け等の電子応用関連が好調に推移したものの、価格競争が厳しい通信・事務機器関連は選別受注を実施したことから受注が減少いたしました。この結果、売上高は28,632百万円（前連結会計年度比0.4%増）と前連結会計年度と比較して110百万円の増収となりました。

(売上原価)

売上高は増収となったものの、原材料価格高騰に伴う製造原価の増加、また製品仕入高も増加となったことにより、売上原価は24,269百万円（前連結会計年度比0.7%増）と前連結会計年度と比較して178百万円増加いたしました。また、売上総利益は4,363百万円（前連結会計年度比1.6%減）と前連結会計年度と比較して68百万円減少いたしました。

(営業損益)

原材料価格高騰に伴う製造原価の増加や製品仕入高の増加により売上総利益が減少したこと、また販売費及び一般管理費も微増となったことにより、当連結会計年度の営業利益は362百万円（前連結会計年度比17.3%減）と前連結会計年度と比較して75百万円の減益となりました。

(営業外損益)

中国にある海外子会社が国からの技術補助金を受領したこと、持分法による投資利益が増加したことなどにより、営業外収益は365百万円（前連結会計年度比16.9%増）となりました。一方、支払利息の増加や為替差損の発生により営業外費用は452百万円（前連結会計年度比92.0%増）となりました。この結果、営業外損益の純額は前連結会計年度と比較して163百万円減少いたしました。この結果、当連結会計年度の経常利益は275百万円（前連結会計年度比46.5%減）となり、前連結会計年度と比較して239百万円の減益となりました。

(特別損益)

当連結会計年度につきましては、受取保険金が前連結会計年度に比べ減少したことにより特別利益は111百万円減少いたしました。一方、当連結会計年度は災害による損失の発生がなかったことから特別損失は127百万円減少し、特別損益の純額は前連結会計年度と比較して16百万円増加いたしました。この結果、税金等調整前当期純利益は250百万円（前連結会計年度比47.2%減）となり、前連結会計年度と比較して223百万円の減益となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、過年度法人税を計上することになったことや繰延税金資産を一部取り崩すこととなった結果、226百万円の親会社株主に帰属する当期純損失となり、前連結会計年度と比較して281百万円の減益で、赤字転換となりました。

セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び検討内容

セグメントごとの財政状態につきましては、当社は報告セグメントに資産を分配していないため、記載を省略しております。

また、経営成績の状況に関する認識及び検討内容につきましては、「第2事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載のとおりであり、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因につきましては、「第2事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(資金需要)

当社グループの運転資金の主たるものは、当社グループの製品製造に必要な原材料及び外注加工費のほか、製造経費、販売費及び一般管理費の営業費用によるものであります。営業費用の主なもの、給料手当等の人件費及び製品送達にかかわる運賃荷造費であります。

また、設備資金としてプリント配線板の生産設備に対する設備投資がありますが、その重要性、緊急性を十分に勘案し、必要なものに絞り設備投資を実施しております。

(財務政策)

当社グループは、主にプリント配線板の製造販売事業を行うための設備投資計画や販売計画に照らし、必要な資金（主に長期性の銀行借入）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を1年以内返済の銀行借入によって調達しております。

なお、事業展開で必要とされる資金需要に対する安定的、効率的な資金調達手段の確保及び資金調達の柔軟性・機動性の向上を図るために、シンジケート方式によるコミットメント期間付タームローン契約を締結しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

当社グループは、プリント配線板事業におきましては、多様化するお客様からの要望に応えるため、特殊材料を用いたプリント配線板の生産等応用技術の確立を目指し研究活動を展開しております。

検査機・ソリューション事業におきましては、高度情報化社会の進展に伴う電子機器の多様化・高度化に対応するため、プリント配線板外観検査機の研究開発活動を行っております。また、プリント配線板メーカーの生産性向上につながる各種ソリューションビジネス商品の研究開発活動を行っております。

セグメントごとの研究開発活動は次のとおりであります。

(プリント配線板事業)

プリント配線板につきましては、透明基板のコア技術を中心とした独自基板の開発を行い、これまでに今までとは違った用途に使用することができる透明フレキシブル基板（SPET・SPET-
・SPET-Color）、高い熱伝導性を持ったフレキシブル基板（kon-jak）、配線を目でみることができない透明フレキシブル基板（SPET-MM）、直ぐに暖まる車載向け透明ヒーターフィルム等の開発・製品化を実現しております。また、この他、顧客ニーズの高いプリント配線板のファイン化、特殊材料を用いたプリント配線板の生産技術の構築、昨今の環境対策の1つとして脚光を浴びているLED用の「高熱伝導度基板」、「高光沢レジスト基板」の開発等を推進しております。

(検査機・ソリューション事業)

当社が提供するプリント配線板外観検査機（VISPERシリーズ）は、プリント配線板メーカーが開発した検査機として、国内だけでなく海外からもその操作性及び信頼性の高さから信任を得て、VISPERブランドとして定着しております。また、各種ソリューションビジネス商品におきましては、プリント配線板メーカーの生産効率向上につながるソリューション提案を実施しております。

今後も、世界各地に点在するお客様の要望に応えるため、それぞれの地域に合ったプリント配線板外観検査機及びソリューションビジネス商品を提供できるよう研究開発活動を継続してまいります。

当連結会計年度における研究開発費は、プリント配線板事業が23百万円、検査機・ソリューション事業が93百万円、総額は116百万円となっております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度は、プリント配線板製造工場の既存設備の補強及び更新等、プリント配線板事業を中心に、生産体制の強化と競争力の向上を目的とした設備投資を実施いたしました。

当連結会計年度の有形固定資産、無形固定資産を併せた設備投資の総額は、1,288百万円（セグメント間消去額33百万円）であります。

セグメントごとの設備投資については、以下のとおりであります。

(1) プリント配線板事業

当連結会計年度は、総額1,288百万円の設備投資を実施いたしました。

主な内容は、当社における国内プリント配線板製造工場の生産体制の効率化や収益力の向上を目的とした投資、白井電子科技(珠海)有限公司におけるプリント配線板製造工場の生産体制増強のための投資等でありま

す。

なお、当連結会計年度におきまして、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) 検査機・ソリューション事業

当連結会計年度におきまして、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

(3) その他

当連結会計年度におきまして、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

(4) 全社共通

当連結会計年度におきまして、重要な設備投資及び設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (京都市右京区)	プリント配線 板事業、検査 機・ソリューション事業	事務所	16	0	53 (220)		135	204	26(2)
三上事業所(注)2 (滋賀県野洲市)	プリント配線 板事業	生産設備	897	334	714 (17,430)	103	142	2,192	210(12)
富波工場(注)2 (滋賀県野洲市)	同上	生産設備	38	15	44 (2,889)	34	7	141	48(9)
富波ガレージ (滋賀県野洲市)	同上	駐車場			129 (2,575)			129	
守山工場(注)2 (滋賀県守山市)	同上	生産設備	8	61			6	75	37(15)
野洲管理センター (滋賀県野洲市)	同上	事務所	18	0			7	25	14()
P板開発サービス本 部 (埼玉県川越市)	同上	事務所・ 生産設備	197	12	210 (4,221)	178	15	614	87(9)
開発センター (京都市中京区)	プリント配線 板事業、検査 機・ソリューション事業	事務所	0	1			0	2	31(6)
技術センター (京都市南区)	検査機・ソ リューション 事業	事務所	5					5	2()
太秦倉庫(注)2 (京都市右京区)	同上	倉庫	2	0	206 (1,445)		0	209	
京北倉庫 (京都市右京区)	プリント配線 板事業、検査 機・ソリューション事業	倉庫	4		3 (940)		0	7	

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
オーミハイ テク(株)	本社・工場 (滋賀県野洲 市)	プリント配 線板事業	事務所 ・生産設 備	229	126	106 (3,026)	36	6	505	93(22)
シライ物流 サービス(株)	本社	その他	事務所	98	2	81 (2,542)		1	185	18(5)

(3) 在外子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
白井電子科 技(香港)有 限公司	本社 (香港九龍)	プリント配 線板事業	事務所					0	0	12()
白井電子科 技(珠海)有 限公司	本社 (中国広東省 珠海市)	同上	事務所・ 生産設備	1,852	1,879		208	286	4,226	811(32)
白井電子商 貿(深セン) 有限公司	本社 (中国広東省 深セン市)	同上	事務所		19			32	51	53()

提出会社、国内子会社及び在外子会社についての注記は、以下のとおりであります。

- (注) 1 帳簿価額には、建設仮勘定及びソフトウェア仮勘定の金額を含んでおりません。
 2 帳簿価額は減損処理後の金額で記載しております。
 3 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品及びソフトウェア等の無形固定資産であります。
 4 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当連結会計年度の平均雇用人員であります。
 5 在外子会社の資産は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算しております。
 6 上記の他、連結会社以外から賃借及びリースしている主要な設備の内容は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

2019年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	賃借土地面積 (㎡)	年間リース料 (百万円)	年間賃借料 (百万円)
野洲管理センター (滋賀県野洲市)	プリント配線板事業	土地(賃借)	(2,594)		7
富波工場 (滋賀県野洲市)	同上	土地(賃借)	(948)		0
守山工場 (滋賀県守山市)	同上	土地(賃借)	(4,052)		7
開発センター (京都市中京区)	プリント配線板事業、 検査機・ソリューション事業	事務所(賃借)			12
技術センター (京都市南区)	検査機・ソリューション事業	事務所(賃借)			3

(2) 国内子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	賃借土地面積 (㎡)	年間リース料 (百万円)	年間賃借料 (百万円)
オーミハイテック㈱	本社・工場 (滋賀県野洲市)	プリント配線板 事業	土地(賃借)	(4,668)		7
	倉庫 (滋賀県野洲市)	同上	建物(賃借)			3

(3) 在外子会社

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	賃借建物面積 (㎡)	年間リース料 (百万円)	年間賃借料 (百万円)
白井電子科技(香港)有限公司	本社 (香港九龍)	プリント配線板事業	事務所 建物(賃借)	(203)		12
白井電子商貿(深セン)有限公司	本社 (中国広東省深セン市)	同上	事務所 建物(賃借)	(875)		20
白井電子商貿(上海)有限公司	本社 (中国上海市)	同上	事務所 建物(賃借)	(259)		10

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

2019年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額(百万円)		操業開始 予定年月
				総額	既支払額	
白井電子科技(珠海)有限公司	本社 (中国広東省珠海市)	プリント配線板事業	工場及び製造設備他	2,900		2021年1月

- (注) 1 上記計画に伴う所要資金は、借入金及び一部自己資金により充当する予定であります。
2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	44,000,000
計	44,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,976,000	13,976,000	東京証券取引所 JASDAQ(スタンダード)	単元株式数は100 株であります。
計	13,976,000	13,976,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2006年9月1日(注)	6,988	13,976		1,361		1,476

(注) 発行済株式数を1株につき2株の割合をもって分割いたしました。

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(名)		8	26	54	16	10	6,294	6,408	
所有株式数(単元)		9,294	4,352	33,738	2,407	237	89,716	139,744	1,600
所有株式数の割合(%)		6.65	3.11	24.14	1.72	0.17	64.20	100.00	

(注) 自己株式1,413株は、「個人その他」に14単元、「単元未満株式の状況」に13株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
白井商事株式会社	京都市左京区上高野仲町4 リソシエ宝ヶ池102号	2,026,000	14.50
シライ電子工業従業員持株会	京都市右京区梅津南広町46-2	851,300	6.09
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2-1	408,000	2.92
白井 総	京都市左京区	391,400	2.80
白井 治夫	京都市左京区	378,480	2.71
白井 由香	京都市左京区	370,400	2.65
任天堂株式会社	京都市南区上鳥羽鉾立町11-1	336,000	2.40
京都中央信用金庫	京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町91	200,000	1.43
住友ベークライト株式会社	東京都品川区東品川2丁目5-8	192,000	1.37
SKANDINAVISKA ENSKILDA BANKEN AB FOR SEB UCITS V-SWEDISH RESIDENTS (常任代理人 株式会社三菱UFJ 銀行)	SEB.10640 STOCKHOLM SWEDEN (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	150,600	1.08
計		5,304,180	37.96

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,973,000	139,730	
単元未満株式	普通株式 1,600		
発行済株式総数	13,976,000		
総株主の議決権		139,730	

(注) 上記「単元未満株式」の欄の普通株式には、自己株式13株が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) シライ電子工業株式会社	京都市右京区梅津南広町 46 - 2	1,400		1,400	0.01
計		1,400		1,400	0.01

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	31	0
当期間における取得自己株式		

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	1,413		1,413	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けており、配当原資確保のため収益力を強化すると同時に企業体質強化のための内部留保を勘案し、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続的かつ安定的に行うことを基本方針としております。

なお、当社は期末配当にて年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。また、当社は毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議によって中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

当期の配当につきましては、上記の方針に基づき1株当たり5円とさせていただきます。

なお、内部留保資金の用途につきましては、経営体質の強化及び設備投資、将来の事業展開に役立てることとしております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
2019年6月26日 定時株主総会決議	69	5

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営のグローバル化と価値観の多様化が進むなかで、企業の社会的責任を自覚し、顧客をはじめとするステークホルダーから信頼を得て、経営情報の開示(経営の透明性の確保)、経営のチェックシステム、公平で透明な競争ルール等の確立を推進し、健全かつ効率的で競争力のある企業として持続的な発展を目指しております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

取締役会は、定時取締役会を毎月1回、臨時取締役会においては必要に応じて随時開催し、会社法等で定められた事項及び経営に関する重要事項を審議、決議するとともに、業務執行の状況を監督しております。有価証券報告書提出日現在8名の取締役(内1名社外取締役)で構成され、議長は代表取締役社長 小谷峰藏、メンバーは、取締役の山中尊夫、亀井正巳、福留雅己、宮崎信、曾我義治、大塚昌彦、上中康司(社外取締役)であります。また、監査役の村上純一、五宝滋夫(社外監査役)、大橋正彦(社外監査役)は取締役会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べております。

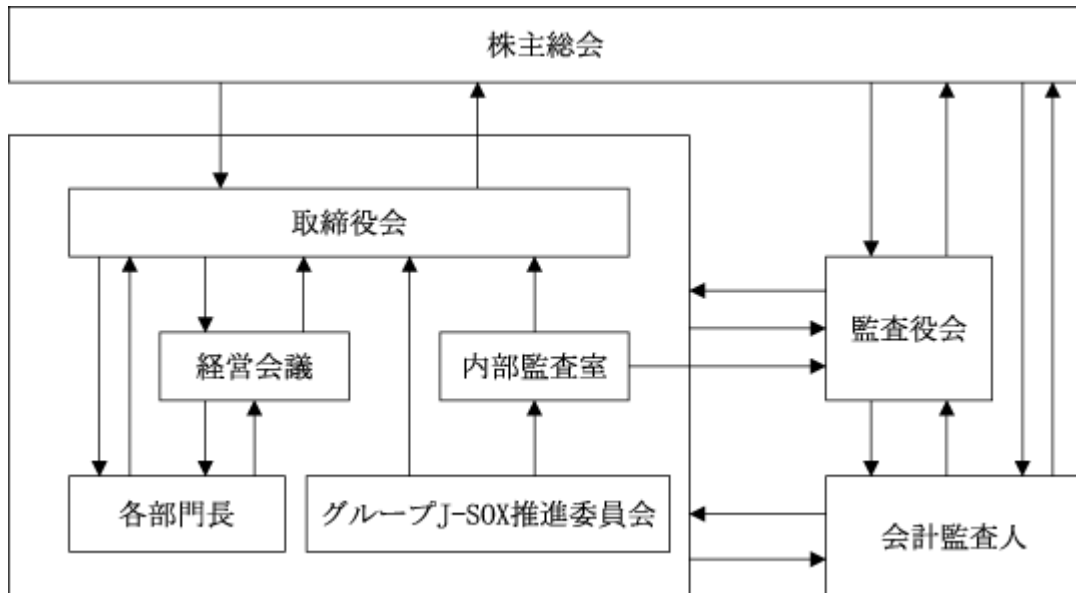
監査役会は、毎月1回また必要に応じて随時開催し、監査方針の決定、会計監査人からの報告聴取、取締役等からの営業報告聴取等を行うとともに、重要会議の審議状況や監査結果等について監査役相互に意見・情報交換を行い、監査の実効性の確保に努めております。有価証券報告書提出日現在3名の監査役(内2名社外監査役)で構成され、議長は監査役村上純一、メンバーは五宝滋夫(社外監査役)、大橋正彦(社外監査役)であります。

経営会議は毎月1回開催し、各審議事項について審議し迅速かつ戦略的な経営の意思決定に活かしております。有価証券報告書提出日現在7名の取締役で構成され、主宰は代表取締役社長 小谷峰藏、メンバーは、取締役の山中尊夫、亀井正巳、福留雅己、宮崎信、曾我義治、大塚昌彦であります。また、監査役の村上純一は経営会議に出席し、必要があると認めるときは意見を述べております。なお、関係者の出席として、関係部門の本部長及び部長クラスの役席者が経営会議に出席しております。

グループJ-SOX推進委員会は、内部統制の基本的計画に沿った内部統制に係る実務を運営、管理する目的で設置される機関であり、取締役会において設置が決定されております。必要に応じて委員会を随時開催し、基本的計画に基づいた施策を立案・議決・実施し、且つ必要に応じてその状況を取締役に報告しております。また、財務諸表の信頼性に関わるプロセスのリスク評価及び統制の充実を図っております。委員長は取締役経営管理担当 福留雅己、構成部署は当社内部監査室及び連結子会社である白井電子科技(香港)有限公司の内部監査室であります。

その他、顧問契約を結んでいる法律事務所から適宜、法律問題全般についての助言と指導を受け、法令遵守に努めております。

当社における会社の機関・内部統制の関係(は報告、指示、監査等を示します。)



企業統治に関するその他の事項

内部統制システムについては、取締役会にて決議している「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、法令の遵守、業務執行の適正性、効率性を確保するために、その体制を次のとおり整備しております。

イ 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社はコーポレートガバナンスの基本方針として、次の4つの項目を掲げております。

- (1) 企業理念の浸透に対する経営者のリーダーシップの発揮
- (2) 経営におけるチェックアンドバランス機能の確立
- (3) 高い倫理観に基づくコンプライアンス体制の構築
- (4) ステークホルダーへの積極的な情報開示とコミュニケーションの充実

取締役会は職務の執行が適正かつ健全に行われるために、コーポレートガバナンスの基本方針をベースとして、実効性のある内部統制システムの構築と法令・定款遵守の体制確立に努める。また、監査役や内部監査室による監査活動を通じて、当該体制の継続的改善を図る。

ロ 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の意思決定又は取締役に対する報告に関しては、取締役会や経営会議の議事録、稟議決裁書等を作成し、「文書管理規程」の定めるところに従い、適切に保管かつ管理していく。

ハ 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社のリスクマネジメント規程、業務分掌規程や職務権限規程、その他の社内規程に従い、各取締役が担当の分掌範囲について責任を持ってリスク管理体制を構築する。リスク管理の観点から重要事項については取締役会の決議により規程の制定、改廃を行うこととする。

ニ 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

当社は、定例の取締役会を毎月1回、その他必要に応じて適時開催し、重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行う。取締役会の機能をより強化し経営効率を向上させるため、取締役が出席する経営会議を毎月1回開催し、業務執行に関する基本的事項及び重要事項に係わる意思決定を機動的に行う。

各業務執行の責任者は、各職務分掌に基づきプロジェクト計画で決定している施策及び業務の執行を効率的に行うとともに、目標に対しての管理、改善を行っていく。

ホ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

(1) 子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制

子会社と当社との情報管理体制を整備する。

(2) 子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

リスク管理体制を整備し、定期的に取り締り会・経営会議等で子会社の職務状況を監視する。

(3) 子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

定期的に取り締り会・経営会議等で職務執行状況を監視する。また必要に応じて当社の主管部門が適切な指導を行う。

(4) 子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

コンプライアンス体制・内部通報制度を整備する。また、監査役や内部監査室による監査活動を通じて、当該体制の継続的改善を図る。

ヘ 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、取締役会は監査役と協議の上補助者を選任し、その補助者は監査役の指示がある場合はその指示に従う。

ト 当社の監査役の前号の使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

監査役の監査業務に係る使用人は取締役からの独立性を確保するため、当該補助人の人事異動及び人事考課を行う場合は、予め監査役に相談し意見を求める。

チ 当社の監査役への報告に関する体制

(1) 当社の取締役及び使用人が監査役に報告するための体制

監査役は、取締役会のほか、経営会議その他の重要な会議に出席し、取締役からその職務の執行状況を聴取し、関係資料を閲覧する。

(2) 子会社の取締役、監査役、業務を執行する社員及び使用人又はこれらの者から報告を受けた者が当社の監査役に報告するための体制

監査役を通報窓口として直接報告できる内部通報制度を整備する。

リ 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社の内部通報制度において、内部通報者に対し不利益な取扱いを行わないことを取り決め遵守する。

ヌ 当社の監査役の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

監査役の職務の執行に係る費用や債務は、当社予算制度のなかで一定の独立性を担保する体制を構築する。

ル その他当社の監査役の監査が実効的に行われることを確保する体制

(1) 取締役及び使用人は監査役監査に対する理解を深め、またその環境の整備に努める。

(2) 監査役と内部監査室との定期的な協議の機会を設け連携を図り、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図る。

ロ 財務報告の信頼性を確保するための体制

(1) 取締役はシライ電子工業グループにおける企業活動について財務報告に関わるリスクを認識し、その分類・分析・評価を行い、有効な統制活動を構築し、推進する。

(2) 取締役は内部統制の構築及び評価を実施する組織を編成し、委員を指名する。

(3) 取締役は統制活動の有効性を評価し、その結果を適切に開示する。また、財務報告に関わる重要な不備を把握した場合、その是正に努めるとともに、適切に開示する。

(4) 取締役会は、財務報告に係る内部統制に関して、取締役を適切に監督する。

ワ 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその体制

当社グループは行動規範を定め、社会秩序や安全、また健全な企業活動に脅威を与える反社会的勢力並びに団体に対しては毅然とした態度で臨み、そのような勢力並びに団体とは一切の関わりを持たないことを基本方針とする。

当社のリスク管理体制は、月次に開催する経営会議において、当社グループを取り巻く重要なリスク及びその対応状況を把握共有しております。また、各関係会社や部門を横断的に繋げる委員会、プロジェクト等においてもリスク管理を行っており、グループ全体でリスク管理の実効性を高めるよう改善を図っております。

また、グループJ-SOX推進委員会において、内部統制評価制度の対応をしております。2019年3月期の経営者評価については予定どおり完了しております。

取締役の定数

当社の取締役は14名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任決議の要件

当社は、取締役の選任決議は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、特別決議の定足数を緩和することにより株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって、同法第423条第1項の取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役との間に、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。また、当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が規定する額としております。これに基づき、当社と社外取締役、常勤監査役及び社外監査役との間で責任限定契約を締結しております。

自己株式取得の取締役会決議の要件

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 11名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	小 谷 峰 藏	1957年7月18日生	1982年4月 当社入社 1997年4月 経理部長 2004年4月 経理・財務担当代理兼経理部長 2005年6月 取締役経理・財務担当兼経理部長 就任 2006年4月 取締役経理・財務担当 2012年6月 オーミハイテク株式会社、非常勤 取締役就任 2012年6月 白井電子科技(香港)有限公司、董 事就任 2014年1月 白井電子科技(香港)有限公司、董 事長(現任) 2014年1月 白井電子科技(珠海)有限公司、董 事長就任 2014年1月 白井電子商貿(深セン)有限公司、 董事長就任 2014年1月 白井電子商貿(上海)有限公司、董 事長就任 2014年4月 取締役海外事業担当 2014年6月 科恵白井電路有限公司、董事就任 (現任) 2015年3月 Shirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd.、代 表取締役社長就任 2016年7月 常務取締役海外事業担当 2018年4月 専務取締役海外事業担当 2018年6月 代表取締役社長(現任) 2018年6月 シライ物流サービス株式会社、非 常勤取締役就任(現任) 2018年6月 オーミハイテク株式会社、非常勤 取締役就任(現任)	(注) 3	48

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役 海外事業担当	山 中 尊 夫	1957年12月6日生	1980年4月 当社入社 1997年4月 品質保証部長 2000年4月 経営システム担当代理部長 2004年4月 人事・総務担当兼人事部長 2004年6月 取締役人事・総務担当兼人事部長 就任 2009年3月 取締役海外事業担当 2009年3月 白井電子科技(香港)有限公司、董 事就任 2009年4月 白井電子科技(珠海)有限公司、董 事就任 2009年5月 白井電子商貿(上海)有限公司、董 事就任 2009年5月 白井電子商貿(深セン)有限公司、 董事就任 2011年3月 白井電子商貿(上海)有限公司、董 事就任 2011年4月 白井電子商貿(深セン)有限公司、 董事長 2011年8月 科惠白井電路有限公司、董事就任 (現任) 2012年1月 取締役海外事業担当兼グローバル 品質保証担当兼品質保証本部長 2013年1月 取締役グローバル品質保証担当兼 品質保証本部長 2013年3月 白井電子商貿(深セン)有限公司、 董事 2013年4月 取締役グローバル品質保証担当 2014年4月 取締役人事総務・品質担当 2018年4月 取締役人事総務担当 2018年6月 常務取締役海外事業担当(現任) 2018年6月 白井電子商貿(深セン)有限公司、 董事長就任(現任) 2018年7月 白井電子科技(珠海)有限公司、董 事長就任(現任) 2018年7月 白井電子商貿(上海)有限公司、董 事長就任(現任) 2018年7月 白井電子科技(香港)有限公司、董 事就任(現任) 2019年5月 Shirai Electronics Trading (Thailand) Co.,Ltd.、 代表取締役社長就任(現任)	(注) 3	32
常務取締役 経営企画・営業担当	亀 井 正 巳	1959年1月20日生	1981年4月 当社入社 1992年4月 CADセンター次長 1994年4月 生産管理部次長 2000年4月 経営戦略企画室長 2004年4月 経営企画担当兼経営企画室長 2004年6月 取締役経営企画担当兼経営企画室 長就任 2009年4月 取締役経営企画・人事・総務担当 兼経営企画室長 2010年4月 取締役経営企画・人事・総務担当 2014年4月 取締役経営管理担当 2018年6月 常務取締役経営企画・営業担当 (現任)	(注) 3	36

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 経営管理担当	福留 雅己	1958年8月17日生	1982年4月 株式会社協和銀行(現株式会社りそな銀行)入行 2008年6月 当社出向 2008年7月 白井電子科技(香港)有限公司出向部長 2009年4月 白井電子商貿(深セン)有限公司、監事就任(現任) 2010年1月 白井電子科技(珠海)有限公司、監事就任(現任) 2010年6月 白井電子商貿(上海)有限公司、監事就任(現任) 2010年8月 当社入社、白井電子科技(香港)有限公司出向 部長 2012年7月 白井電子科技(香港)有限公司、董事就任(現任) 2015年3月 Shirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd.、取締役就任(現任) 2018年2月 経営管理担当付部長 2018年4月 管理本部長 2018年6月 取締役経営管理担当兼財務部長就任 2019年4月 取締役経営管理担当(現任)	(注) 3	0
取締役 国内生産担当	宮崎 信	1960年3月7日生	1988年6月 株式会社カナメ入社 1990年8月 当社入社 2005年4月 三上工場長兼生産管理部長 2007年4月 白井電子科技(香港)有限公司出向部長 2009年4月 白井電子商貿(深セン)有限公司出向 部長 2012年1月 白井電子科技(珠海)有限公司出向本部長 2012年12月 白井電子商貿(深セン)有限公司出向 本部長 2013年1月 白井電子科技(珠海)有限公司、董事就任 2013年3月 白井電子商貿(深セン)有限公司、董事就任 2014年1月 白井電子科技(香港)有限公司、董事就任 2014年5月 白井電子商貿(上海)有限公司、董事就任 2015年7月 資材部長 2016年4月 生産本部長 2018年4月 国内PWB事業部長 2018年6月 取締役国内生産担当兼PWB生産本部長就任 2018年6月 オーミハイテック株式会社、非常勤取締役就任(現任) 2019年4月 取締役国内生産担当(現任)	(注) 3	14

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役 品質・技術統括担当 兼品質保証本部長	曾 我 義 治	1967年7月14日生	1990年4月 当社入社 2005年4月 富波工場長 2007年4月 生産担当部長 2010年4月 生産担当本部長 2011年10月 白井電子科技(珠海)有限公司出向 本部長 2012年8月 白井電子科技(珠海)有限公司、董 事就任 2014年1月 白井電子科技(香港)有限公司、董 事就任 2014年1月 白井電子商貿(深セン)有限公司、 董事就任 2018年2月 プリント配線板事業統括担当付本 部長 2018年4月 品質・技術統括担当 部門責任者 2018年6月 取締役品質・技術統括担当就任 2018年10月 白井電子科技(珠海)有限公司、董 事就任(現任) 2019年4月 取締役品質・技術統括担当兼品質 保証本部長(現任)	(注) 3	12
取締役 ソリューション事業担当	大 塚 昌 彦	1969年8月17日生	1993年8月 当社入社 2007年4月 検査機部次長 2012年4月 検査機・ソリューション部長 2015年4月 VISPER・ソリューション事業部長 2018年4月 ソリューション事業部長 2018年6月 取締役ソリューション事業担当就 任(現任)	(注) 3	0
取締役	上 中 康 司	1962年8月6日生	1988年4月 ㈱日本債券信用銀行(現:㈱あお ぞら銀行)入行 1993年7月 シティバンク銀行入行 1996年8月 クレディ スイス ファースト ポ ストン証券(現:クレディ スイ ス 証券㈱)入社 1997年4月 住友キャピタル証券㈱(現:大和 証券キャピタル・マーケッツ㈱) 入社 1998年8月 日本インベスターズ証券 入社 2000年3月 エフエドットコム㈱設立、代表 取締役 2004年8月 ㈱サクシード(現:上中商事㈱) 設立、代表取締役(現任) 2008年4月 KF2 CAPITAL PTE LTD(シンガ ポール)設立、代表取締役 2010年5月 ライトスマートインターナシヨナ ル(カンボジアNGO)設立、 会長(現任) 2011年4月 自民党京都府第二選挙区衆議院支 部長 2015年2月 ホライズン(株)設立、代表取締役 2015年4月 一般社団法人日本社外取締役協会 設立、理事(現任) 2017年5月 ㈱建設経済新聞社、代表取締役 (現任) 2017年6月 北日本紡績㈱、取締役(現任) 2018年6月 当社取締役就任(現任)	(注) 3	3

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	村上 純一	1955年6月9日生	1979年4月 当社入社 1990年4月 太秦工場長 1994年1月 企画室長 1996年4月 経営企画部長 1998年4月 生産担当兼生産管理部長 1998年6月 取締役就任 2004年4月 常務取締役営業統括担当兼西日本営業担当就任 2005年4月 常務取締役営業統括・設計担当 2006年4月 白井電子科技(香港)有限公司、董事長就任 2007年1月 白井電子科技(珠海)有限公司、董事就任 2007年6月 白井電子商貿(上海)有限公司、董事長就任 2008年4月 常務取締役海外事業担当 2008年7月 科惠白井電路有限公司、董事就任 2008年9月 白井電子商貿(深セン)有限公司、董事長就任 2011年1月 常務取締役生産担当 2012年4月 常務取締役 2012年6月 常勤監査役就任(現任) 2012年6月 シライ物流サービス株式会社、監査役就任(現任) 2012年6月 オーミハイテック株式会社、監査役就任(現任)	(注) 4	57
監査役	五宝 滋夫	1958年1月31日生	1981年4月 麒麟麦酒株式会社(現キリンビール株式会社)入社 2007年3月 キリン株式会社、経営監査部兼キリンホールディングス株式会社、グループ経営監査担当主査 キリンディスティラリー株式会社、株式会社横浜赤レンガ、鶴見倉庫株式会社、監査役就任 2008年3月 キリンエンジニアリング株式会社、株式会社横浜アリーナ、監査役就任 2009年3月 株式会社永昌源、株式会社鎌倉海浜ホテル、監査役就任 2012年3月 キリンテクノシステム株式会社、キリンエコー株式会社、コスモ食品株式会社、監査役就任 2012年11月 台湾麒麟酒股份有限公司、監察人 2013年3月 関西キリンビバレッジサービス株式会社、監査役就任 2015年6月 株式会社ShowcaseGig、常勤監査役就任 2016年6月 当社監査役就任(現任) 2016年11月 株式会社一家ダイニングプロジェクト、常勤監査役就任 2017年6月 株式会社Kaizen Platform、監査役就任(現任) 2019年6月 株式会社一家ダイニングプロジェクト、社外取締役 監査等委員(現任)	(注) 4	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	大橋正彦	1961年5月4日生	1984年4月 株式会社協和銀行(現株式会社りそな銀行)入行 2001年7月 株式会社あさひ銀行(現株式会社りそな銀行)大船支店、支店長 2012年4月 株式会社りそな銀行、執行役員 首都圏地域担当 2015年4月 ジェイアンドエス保険サービス株式会社、取締役常務執行役員 2017年4月 株式会社日刊工業新聞社、執行役員 2017年6月 当社監査役就任(現任) 2017年6月 株式会社日刊工業新聞社、常務取締役就任(現任)	(注) 4.5	
計					205

- (注) 1 取締役上中康司は、社外取締役であります。
- 2 監査役五宝滋夫及び大橋正彦は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役任期は、2016年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 任期満了前に退任した監査役の補欠として2017年3月期に係る定時株主総会において選任されております。
- 6 当社は、法令に定める監査役員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
和氣大輔	1968年8月2日生	1998年10月 中央監査法人入所 2005年1月 和氣公認会計士事務所開設、事務所所長(現任) 2012年6月 TOWA株式会社、社外監査役就任 2016年6月 同社、取締役監査等委員(社外取締役)(現任)	

社外役員の状況

a. 社外取締役及び社外監査役の員数

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

b. 社外取締役及び社外監査役と当社との人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係

社外取締役上中康司氏は、エフエドットコム株式会社、KF2 CAPITAL PTE LTD（シンガポール）、及びホライズン株式会社の代表取締役、自民党京都府第二選挙区衆議院支部長であったことがあり、有価証券報告書提出日現在においては、上中商事株式会社、及び株式会社建設経済新聞社の代表取締役、北日本紡績株式会社の取締役、ライトスマートインターナショナル（カンボジアNGO）の会長、一般社団法人日本社外取締役協会の理事を兼任しておりますが、当社とそれらの会社等との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。なお、同氏は「役員一覧」に記載のとおり当社株式を所有しておりますが、持株比率が僅少であるため、一般株主との利益相反が生じるおそれはないと判断しております。

社外監査役五宝滋夫氏は、キリン株式会社経営監査部兼キリンホールディングス株式会社のグループ経営監査担当主査、キリンディスティラリー株式会社、株式会社横浜赤レンガ、鶴見倉庫株式会社、キリンエンジニアリング株式会社、株式会社横浜アリーナ、株式会社永昌源、株式会社鎌倉海浜ホテル、キリンテクノシステム株式会社、キリンエコー株式会社、コスモ食品株式会社、及び関西キリンビバレッジサービス株式会社の監査役、株式会社ShowcaseGigの常勤監査役、台湾麒麟^(有)酒股份有限公司の監察人であったことがあり、有価証券報告書提出日現在においては、株式会社一家ダイニングプロジェクトの社外取締役 監査等委員、及び株式会社Kaizen Platformの監査役を兼任しておりますが、当社とそれらの会社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役大橋正彦氏は、当社のメインバンクである株式会社りそな銀行の執行役員であったことがあり、当社と同行との間には、2019年3月末時点において、同行が当社株式の2.92%を保有するとともに当社が同行等を傘下にもつ銀行持株会社 株式会社りそなホールディングス株式の0.00%を保有する資本的関係がありますが、互いに主要株主には該当しないことから、その重要性はないものと判断しております。さらに、2019年3月末時点において当社は同行から1,586百万円の借入残高がありますが、同行以外の複数の金融機関と借入取引を行っており、社外監査役としての職務への影響度はないものと判断しております。また、当社と同行との間にその他の利害関係はありません。及び、ジェイアンドエス保険サービス株式会社の取締役常務執行役員であったことがあり、当社と当該会社との間には、2019年3月末時点において保険取引がありますが、それ以外について人的関係、資本的関係又はその他の利害関係はありません。有価証券報告書提出日現在においては、株式会社日刊工業新聞社の常務取締役を兼務しておりますが、当社と当該会社との間に人的関係、資本的関係又はその他の利害関係はありません。

c. 社外取締役又は社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

社外役員による経営監視は、公正かつ透明性の高い企業統治を行う上で非常に重要であり、様々な専門性や知見、経験を持つ社外役員を選任し、客観的かつ中立的な経営監視機能が発揮されることで、適正な企業統治が図られるものと考えております。

d. 社外取締役又は社外監査役を選任するための当社からの独立性に関する基準又は方針の内容

当社において、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、株式会社東京証券取引所が定める独立性基準を参考に、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、選任しております。

なお、当社は、社外取締役上中康司氏及び社外監査役五宝滋夫氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出しております。

e. 社外取締役又は社外監査役の選任状況に関する当社の考え方

社外取締役上中康司氏につきましては、金融機関や証券会社における業務経験で培われた豊富な経験と幅広い見識に基づき、社外取締役としての助言や指摘を頂くことにより、コーポレートガバナンスの一層の強化を図ることが出来ると判断いたしました。

社外監査役五宝滋夫氏につきましては、他社の監査役を歴任されたことなどによる優れた見識・経験を当社の監査体制に活かし、かつ、客観的な立場から社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断いたしました。

社外監査役大橋正彦氏につきましては、金融機関における長年の経験と財務等に関する豊富な知見を有しており、実務及び専門の見地からの監査が期待でき、かつ、客観的な立場から社外監査役としての職務を適切に遂行していただけるものと判断いたしました。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役においては、取締役会への出席のほか、他の取締役や監査役との随時の会合を通じて内部監査、会計監査についての結果並びに内部統制の運用状況等について、情報を得られる体制としております。

社外監査役においては、監査役相互の情報共有、効率的な監査、コーポレートガバナンスの維持強化のため監査役会にて協議し、経営状況のチェック及び監査役相互の意見交換を行うとともに、取締役会と監査役会への出席のほか、定期的及び随時に常勤監査役、内部監査室及び会計監査人と、情報の共有と意見交換を行っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、株主総会や取締役会をはじめとした重要会議への出席や事業場への往査等を通じ、実効性のあるモニタリングに取り組むとともに、取締役の職務執行を監査しております。

なお、監査役監査の組織は、常勤監査役1名、監査役（社外監査役）2名であります。なお、監査役（社外監査役）の内1名は、金融機関における長年の経験があり、財務及び会計に関する相当の知見を有しております。会計監査人であるPwC京都監査法人とは、必要の都度情報交換を行うことにより連携を保っております。

内部監査の状況

当社における内部監査は、内部統制システムの充実を図るため、代表取締役社長直轄部門として内部監査室を独立させ必要な監査及び調査を計画的・定期的を実施しております。専任者は有価証券報告書提出日現在3名ですが、必要に応じて監査役や本社管理部門、ISOマネジメントシステム(環境・品質)の管理責任者及び内部監査員と情報交換を実施し、監査の有効性の向上を図っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

PwC京都監査法人

b. 業務を執行した公認会計士

指定社員 業務執行社員 田村 透

指定社員 業務執行社員 江口 亮

c. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者の構成、公認会計士2名、会計士試験合格者等3名、その他4名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

当社は、会計監査人の独立性・専門性等を有することについて確認することにより、監査法人を適切に選定しております。また、当社は以下のとおり、「会計監査人の解任又は不再任の決定の方針」を定めております。

会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合など、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、これを株主総会の会議の目的とする議案の内容といたします。また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、監査法人及び関係部門より意見の聴取を行うとともに、「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針（公益社団法人日本監査役協会）」をベースとした「会計監査人の監査の相当性判断」に関するチェックリストに基づいて、監査法人の評価を行っております。

なお、当社の会計監査人であるPwC京都監査法人につきましては、独立性・専門性ともに問題はないと判断しております。

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（2019年1月31日内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56)d(f)iからの規定に経過措置を適用しております。

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	30		30	
連結子会社	3		3	
計	34		34	

b. その他重要な報酬の内容

(前連結会計年度)

当社の連結子会社である白井電子科技(香港)有限公司及び白井電子科技(珠海)有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているプライスウォーターハウスクーパースグループに対して、監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬があります。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社である白井電子科技(香港)有限公司及び白井電子科技(珠海)有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているプライスウォーターハウスクーパースグループに対して、監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬があります。

c. 監査報酬の決定方針

監査計画の妥当性等を検証の上、監査役会の同意を得て決定しております。

d. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由については、監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算定根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をしております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社の役員の報酬等に関しましては、1991年6月27日開催の定時株主総会において取締役の報酬限度額は月額400万円以内、1990年6月28日開催の定時株主総会において監査役の報酬限度額は月額300万円以内と決議されております。

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めており、その内容は、取締役及び監査役の役員報酬につきましては、株主総会の決議により取締役及び監査役の月額報酬限度額の総額を決定しております。また、個々の取締役及び監査役の役員報酬額につきましては、企業業績と企業価値の持続的な向上に資することとし、職責に見合う報酬水準、報酬体系となるよう設計することを基本方針としております。

この基本方針に基づき、取締役会より一任された代表取締役社長が、取締役の役割と責任及び業績に報いるに相応しい額を総合的に勘案し、各取締役の報酬額を決定しております。

なお、当事業年度における当社の役員の報酬等の額の決定過程における取締役会の活動は、2018年6月27日の取締役会において、取締役の報酬等の額の決定について代表取締役社長に一任することを決議しております。

監査役の報酬につきましては、監査役全員の協議の上、監査役会にて決定しております。

なお、当社の役員報酬は固定報酬のみで構成されております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)		対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	106	106		10
監査役 (社外監査役を除く)	13	13		1
社外役員	11	11		4

(注) 上表には、2018年6月27日開催の第49回定時株主総会の終結の時をもって退任した取締役3名及び社外取締役1名を含んでおります。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社の投資株式における保有目的の区分は、株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする株式を純投資目的である投資株式、取引関係の維持・強化のため政策的に保有する株式を純投資目的以外の株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、事業の拡大や持続的な発展により企業価値を高めていくには、販売・生産・資金調達等において様々な取引先との協力関係が必要と考えており、事業戦略上の重要性、取引先との事業上の関係を総合的に勘案し、政策的に必要であると判断する株式については保有していく考えであります。なお、保有の意義が必ずしも十分でないと判断される銘柄については縮減を図ることといたします。また、個別銘柄について定期的に精査を実施し、保有の妥当性について検証しております。

b．銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	4	2,756
非上場株式以外の株式	13	125

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式	5	5	持株会による取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	3	0

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
パナソニック株式会社	49,514	49,514	取引関係の維持・強化のため	無
	47	75		
SMC株式会社	518	450	取引関係の維持・強化のため 持株会による取得により株式数増加	無
	21	19		
ローム株式会社	1,757	1,674	取引関係の維持・強化のため 持株会による取得により株式数増加	無
	12	16		
ASTI株式会社	6,344	6,024	取引関係の維持・強化のため 持株会による取得により株式数増加	無
	11	22		
日清紡ホールディングス株式会社(注2)	9,685	14,591	取引関係の維持・強化のため	無
	9	11		
株式会社村田製作所	1,201	359	取引関係の維持・強化のため 持株会による取得及び株式の分割により株式数増加	無
	6	5		
株式会社日立製作所	1,333	5,719	取引関係の維持・強化のため 株式併合により株式数減少	無
	4	4		
株式会社SCREENホールディングス	1,054	949	取引関係の維持・強化のため 持株会による取得により株式数増加	有
	4	9		
メック株式会社	4,000	4,000	取引関係の維持・強化のため	有
	4	6		
任天堂株式会社	111	111	取引関係の維持・強化のため	有
	3	5		
双信電機株式会社	1,000	1,000	取引関係の維持・強化のため	無
	0	0		
株式会社滋賀銀行	173	857	取引関係の維持・強化のため	無
	0	0		
株式会社りそなホールディングス	6	6	取引関係の維持・強化のため	無 (注3)
	0	0		

(注) 1 定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は、個別銘柄について定期的に精査を実施し、保有の妥当性について検証しております。

2 新日本無線株式会社は、2018年9月1日付の株式交換により日清紡ホールディングス株式会社の完全子会社となっております。

3 株式会社りそなホールディングスは当社株式を保有しておりませんが、同子会社である株式会社りそな銀行は、当社株式を保有しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報のうち、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(2018年3月23日内閣府令第7号。以下「改正府令」という。)による改正後の連結財務諸表規則第15条の5第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報のうち、改正府令による改正後の財務諸表等規則第8条の12第2項第2号及び同条第3項に係るものについては、改正府令附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、PwC京都監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,826	2,253
受取手形及び売掛金	4 6,177	4 6,233
電子記録債権	4 271	4 335
製品	1,555	1,890
仕掛品	510	588
原材料及び貯蔵品	443	391
その他	475	448
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	12,260	12,140
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2 3,669	2 3,394
機械装置及び運搬具（純額）	2 2,220	2 2,382
土地	2 1,549	2 1,550
リース資産（純額）	655	561
建設仮勘定	11	156
その他（純額）	2 318	2 376
有形固定資産合計	1 8,425	1 8,422
無形固定資産		
リース資産	0	0
その他	2 337	2 286
無形固定資産合計	338	286
投資その他の資産		
投資有価証券	3 749	3 820
繰延税金資産	343	187
その他	150	153
貸倒引当金	13	13
投資その他の資産合計	1,229	1,147
固定資産合計	9,993	9,856
資産合計	22,253	21,997

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4 4,097	4 3,969
電子記録債務	4 820	4 1,175
短期借入金	2 4,196	2 4,629
1年内返済予定の長期借入金	2, 5, 6 2,022	2, 5, 6 1,912
リース債務	152	161
未払法人税等	91	166
賞与引当金	294	307
その他	4 1,755	4 1,202
流動負債合計	13,428	13,525
固定負債		
社債	200	200
長期借入金	2, 5, 6 3,675	2, 5, 6 4,022
リース債務	290	272
繰延税金負債	8	0
退職給付に係る負債	619	593
資産除去債務	145	147
その他	165	84
固定負債合計	5,104	5,320
負債合計	18,533	18,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,361	1,361
資本剰余金	1,506	1,506
利益剰余金	1,353	1,057
自己株式	0	0
株主資本合計	4,222	3,925
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67	27
為替換算調整勘定	659	894
退職給付に係る調整累計額	43	49
その他の包括利益累計額合計	635	916
非支配株主持分	133	141
純資産合計	3,720	3,150
負債純資産合計	22,253	21,997

【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
売上高	28,522	28,632
売上原価	1 24,090	1 24,269
売上総利益	4,432	4,363
販売費及び一般管理費	2, 3 3,993	2, 3 4,000
営業利益	438	362
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	2	3
持分法による投資利益	63	173
為替差益	54	
補助金収入	148	118
その他	36	65
営業外収益合計	312	365
営業外費用		
支払利息	193	255
為替差損		168
その他	41	28
営業外費用合計	235	452
経常利益	515	275
特別利益		
固定資産売却益	4 0	4 0
受取保険金	5 125	5 14
特別利益合計	126	15
特別損失		
固定資産廃棄損	6 60	6 31
固定資産売却損	7 9	7 8
減損損失	8 11	
災害による損失	9 86	
特別損失合計	168	40
税金等調整前当期純利益	474	250
法人税、住民税及び事業税	151	189
過年度法人税等		110
法人税等調整額	245	167
法人税等合計	397	468
当期純利益又は当期純損失()	76	218
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に 帰属する当期純損失()	54	226
非支配株主に帰属する当期純利益	22	8
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26	40
為替換算調整勘定	142	183
退職給付に係る調整額	1	6
持分法適用会社に対する持分相当額	26	51
その他の包括利益合計	10 197	10 281
包括利益	273	499
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	250	508
非支配株主に係る包括利益	23	9

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,361	1,506	1,369	0	4,238
当期変動額					
剰余金の配当			69		69
親会社株主に帰属する 当期純利益			54		54
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			15		15
当期末残高	1,361	1,506	1,353	0	4,222

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	40	827	44	831	109	3,516
当期変動額						
剰余金の配当						69
親会社株主に帰属する 当期純利益						54
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	26	168	1	196	23	219
当期変動額合計	26	168	1	196	23	204
当期末残高	67	659	43	635	133	3,720

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,361	1,506	1,353	0	4,222
当期変動額					
剰余金の配当			69		69
親会社株主に帰属する 当期純損失()			226		226
自己株式の取得				0	0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計			296	0	296
当期末残高	1,361	1,506	1,057	0	3,925

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	67	659	43	635	133	3,720
当期変動額						
剰余金の配当						69
親会社株主に帰属する 当期純損失()						226
自己株式の取得						0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	40	235	6	281	8	273
当期変動額合計	40	235	6	281	8	569
当期末残高	27	894	49	916	141	3,150

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	474	250
減価償却費	964	1,115
減損損失	11	
補助金収入	148	118
受取保険金	125	14
賞与引当金の増減額(は減少)	15	19
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	15	31
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	10	8
支払利息	193	255
為替差損益(は益)	37	253
固定資産売却損益(は益)	8	8
固定資産廃棄損	60	31
投資有価証券売却損益(は益)		0
持分法による投資損益(は益)	63	173
売上債権の増減額(は増加)	508	287
たな卸資産の増減額(は増加)	223	418
仕入債務の増減額(は減少)	26	422
未払消費税等の増減額(は減少)	138	185
その他	375	197
小計	808	1,291
利息及び配当金の受取額	10	8
災害による保険金収入	96	14
利息の支払額	191	253
法人税等の支払額	130	262
法人税等の還付額	8	8
営業活動によるキャッシュ・フロー	601	805
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,496	1,817
有形固定資産の売却による収入	0	2
無形固定資産の取得による支出	44	27
投資有価証券の取得による支出	7	6
投資有価証券の売却による収入		0
補助金の受取額	148	118
その他	3	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,402	1,735
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	173	567
長期借入れによる収入	2,877	2,305
長期借入金の返済による支出	2,006	2,207
リース債務の返済による支出	176	170
社債の発行による収入	195	
配当金の支払額	69	69
財務活動によるキャッシュ・フロー	994	425
現金及び現金同等物に係る換算差額	40	69
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	153	573
現金及び現金同等物の期首残高	2,283	2,436
現金及び現金同等物の期末残高	2,436	1,863

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

イ 連結子会社の数 7社

白井電子科技(香港)有限公司
白井電子科技(珠海)有限公司
白井電子商貿(上海)有限公司
白井電子商貿(深セン)有限公司
Shirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd.
シライ物流サービス株式会社
オーミハイテック株式会社

ロ 非連結子会社の数

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

イ 持分法を適用した関連会社数 1社

会社等の名称
科恵白井電路有限公司

ロ 持分法を適用していない非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

ハ 決算日が連結決算日と異なるため、事業年度に係る財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、白井電子科技(香港)有限公司、白井電子科技(珠海)有限公司、白井電子商貿(上海)有限公司、白井電子商貿(深セン)有限公司及びShirai Electronics Trading(Thailand) Co.,Ltd.の決算日は、12月31日でありま
す。連結財務諸表の作成にあたっては、同決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引に
ついては、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ 有価証券

その他有価証券

(イ)時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

(ロ)時価のないもの

総平均法による原価法

ロ デリバティブ

時価法

ハ たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

主として総平均法による原価法

(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ 有形固定資産(リース資産を除く)

(イ)2007年3月31日以前に取得したもの

当社は旧定額法によっております。なお、連結子会社は定額法によっております。

(ロ)2007年4月1日以降に取得したもの

当社及び連結子会社は定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3～45年

機械装置及び運搬具 2～10年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

ロ 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

ハ リース資産

・所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ 貸倒引当金

(イ)当社及び国内連結子会社

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)在外連結子会社

主として特定の債権について回収不能見込額を計上しております。

ロ 賞与引当金

従業員の賞与の支出に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債並びに収益及び費用は、在外連結子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

イ ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理を採用しております。

ロ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象・・・外貨建金銭債務、借入金の支払利息

ハ ヘッジ方針

内部規程に基づき、外貨建取引の為替相場変動リスクを回避する目的で為替予約を行い、また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で、金利スワップを実需の範囲内で利用しております。

ニ ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を半期毎に比較し、両者の変動額を基礎にして有効性を評価しております。なお、振当処理によつて為替予約、特例処理によつている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、要求払預金及び取得日から3か月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

当社及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」113百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」343百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前連結会計年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(連結貸借対照表関係)

1 減価償却累計額

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
減価償却累計額	11,557百万円	12,147百万円

2 担保資産

担保に供している資産及びこれに対する債務は次のとおりであります。

(担保に供している資産)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
建物及び構築物	3,308百万円	3,072百万円
機械装置及び運搬具	573百万円	356百万円
土地	1,324百万円	1,324百万円
有形固定資産その他	2百万円	2百万円
無形固定資産その他	128百万円	116百万円
計	5,337百万円	4,873百万円

(上記に対する債務)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
短期借入金	1,706百万円	1,981百万円
1年内返済予定の長期借入金	1,024百万円	1,067百万円
長期借入金	2,517百万円	2,724百万円
計	5,249百万円	5,774百万円

3 関連会社に対する投資

関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
投資有価証券(株式)	572百万円	694百万円

4 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
受取手形	28百万円	18百万円
電子記録債権	7百万円	16百万円
支払手形	61百万円	57百万円
電子記録債務	250百万円	303百万円
設備支払手形	3百万円	0百万円
設備電子記録債務	5百万円	百万円

5 コミットメント期間付タームローン契約

前連結会計年度 (2018年3月31日)		当連結会計年度 (2019年3月31日)	
<p>当社は、三上事業所新棟の建設資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とシンジケート方式によるコミットメント期間付タームローン契約を締結しております。</p> <p>当連結会計年度末におけるコミットメント期間付タームローン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。</p>		<p>当社は、三上事業所新棟の建設資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とシンジケート方式によるコミットメント期間付タームローン契約を締結しております。</p> <p>当連結会計年度末におけるコミットメント期間付タームローン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。</p>	
コミットメント期間付タームローンの総額	1,400百万円	コミットメント期間付タームローンの総額	1,400百万円
借入実行残高	868百万円	借入実行残高	1,400百万円
差引額	532百万円	差引額	百万円

6 財務制限条項

前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
<p>(1) 連結子会社は、白井電子科技(珠海)有限公司の工場建設に伴う投資資金を安定的に調達するため、取引銀行3行とタームローン契約を締結しており、1年内返済予定の長期借入金のうち356百万円(3,152千USD)及び長期借入金のうち175百万円(1,549千USD)には、下記の財務制限条項が付されております。</p> <p>2015年3月期以降の各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における修正純資産金額を前年同期の純資産の部の金額比75%以上に維持する。なお、修正純資産金額とは、ある特定の事業年度末日における連結の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額から、当該事業年度の末日における連結の損益計算書の営業外利益に記載される為替差益を減算し、営業外損失に記載される為替差損を加算して算出される金額をいう。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される修正経常損益が2期連続(2014年3月期以降に到来する決算期に限る。)して損失とならないようにする。なお、修正経常損益とは、ある特定の事業年度末日における連結の損益計算書に記載される経常損益の金額から、当該事業年度の末日における連結の損益計算書の営業外利益に記載される為替差益を減算し、営業外損失に記載される為替差損を加算して算出される金額をいう。</p>	<p>(1) 連結子会社は、白井電子科技(珠海)有限公司の工場建設に伴う投資資金を安定的に調達するため、取引銀行3行とタームローン契約を締結しており、1年内返済予定の長期借入金のうち172百万円(1,549千USD)には、下記の財務制限条項が付されております。</p> <p>2015年3月期以降の各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における修正純資産金額を前年同期の純資産の部の金額比75%以上に維持する。なお、修正純資産金額とは、ある特定の事業年度末日における連結の貸借対照表に記載される純資産の部の合計金額から、当該事業年度の末日における連結の損益計算書の営業外利益に記載される為替差益を減算し、営業外損失に記載される為替差損を加算して算出される金額をいう。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される修正経常損益が2期連続(2014年3月期以降に到来する決算期に限る。)して損失とならないようにする。なお、修正経常損益とは、ある特定の事業年度末日における連結の損益計算書に記載される経常損益の金額から、当該事業年度の末日における連結の損益計算書の営業外利益に記載される為替差益を減算し、営業外損失に記載される為替差損を加算して算出される金額をいう。</p>
<p>(2) 当社は、三上事業所の新棟建設に伴う投資資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とタームローン契約を締結しており、1年内返済予定の長期借入金のうち36百万円及び長期借入金のうち831百万円には、下記の財務制限条項が付されております。</p> <p>各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される当期経常損益から営業外収益及び営業外費用に計上される為替差損益を控除した金額が2期連続して損失とならないようにする。</p>	<p>(2) 当社は、三上事業所の新棟建設に伴う投資資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とタームローン契約を締結しており、1年内返済予定の長期借入金のうち116百万円及び長期借入金のうち1,225百万円には、下記の財務制限条項が付されております。</p> <p>各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。</p> <p>各年度の決算期における連結の損益計算書に示される当期経常損益から営業外収益及び営業外費用に計上される為替差損益を控除した金額が2期連続して損失とならないようにする。</p>

(連結損益及び包括利益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれておりません。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
	23百万円	40百万円

- 2 販売費及び一般管理費の主なもの

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給料及び手当	1,278百万円	1,296百万円
賞与引当金繰入額	102百万円	104百万円
退職給付費用	47百万円	46百万円
運賃及び荷造費	452百万円	429百万円
支払手数料	390百万円	451百万円

- 3 研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
一般管理費に含まれる研究開発費	136百万円	116百万円

- 4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
機械装置及び運搬具	0百万円	0百万円
その他(工具、器具及び備品等)	百万円	0百万円
計	0百万円	0百万円

- 5 受取保険金

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

2017年8月の台風の影響により、連結子会社である白井電子科技(珠海)有限公司において発生した台風被害に対する損害保険の受取保険金であります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

金額的重要性が乏しいため、記載を省略しております。

- 6 固定資産廃棄損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	30百万円	11百万円
機械装置及び運搬具	25百万円	3百万円
その他(工具、器具及び備品等)	4百万円	17百万円
計	60百万円	31百万円

7 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
建物及び構築物	百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	9百万円	8百万円
計	9百万円	8百万円

8 減損損失

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当社グループは、当連結会計年度において以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

場所	種類	用途
太秦倉庫 (京都府京都市)	建物附属設備及び構築物	遊休資産

当社は、主に継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分を資産グルーピングの基礎としております。ただし遊休資産については、物件のそれぞれが概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最少の単位としてとらえ、物件ごとにグルーピングを行っております。当連結会計年度において、当資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、遊休資産の減少額を減損損失（建物附属設備3百万円、構築物7百万円）として特別損失に計上いたしました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額としております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

9 災害による損失

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

2017年8月の台風の影響により、連結子会社である白井電子科技(珠海)有限公司において発生した台風による設備等の被害及び設備等の復旧費等であります。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

10 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	35百万円	57百万円
組替調整額	百万円	百万円
税効果調整前	35百万円	57百万円
税効果額	8百万円	17百万円
その他有価証券評価差額金	26百万円	40百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	142百万円	183百万円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	10百万円	21百万円
組替調整額	12百万円	13百万円
税効果調整前	1百万円	8百万円
税効果額	0百万円	2百万円
退職給付に係る調整額	1百万円	6百万円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	26百万円	51百万円
その他の包括利益合計	197百万円	281百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	13,976			13,976

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,382			1,382

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2017年6月28日 定時株主総会	普通株式	69	5.00	2017年3月31日	2017年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	69	5.00	2018年3月31日	2018年6月28日

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(千株)	13,976			13,976

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	1,382	31		1,413

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 31株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	69	5.00	2018年3月31日	2018年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	69	5.00	2019年3月31日	2019年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	2,826百万円	2,253百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	390百万円	390百万円
現金及び現金同等物	2,436百万円	1,863百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

- ・有形固定資産

主として、プリント配線板事業における生産設備(機械装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

- ・有形固定資産

主として、プリント配線板事業における生産設備(機械装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
1年内	8	12
1年超	26	31
合計	34	44

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主にプリント配線板の製造販売事業を行うための設備投資計画や販売計画に照らし、必要な資金（主に長期性の銀行借入）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を1年以内返済の銀行借入によって調達しております。デリバティブ取引は、金利変動リスクを軽減すべく金利スワップ取引を利用しておりますが、その他の投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての営業債務の支払に充当し、資金ロスの低減を図っております。投資有価証券は、主に取引先企業の安定株主施策に応じ所有する株式であり、市場の価格変動リスクに晒されております。また、子会社又は関係会社に対しては、必要に応じ短期及び長期の貸付を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、6ヶ月以内の支払期日であります。また、その一部には、原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。借入金及び社債は運転資金として必要な資金調達を目的にしており、最長で11年であります。その一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち一部についてはデリバティブ取引（金利スワップ）を利用してヘッジしております。シンジケートローンは当社の事業展開で必要とされる資金需要に対する安定的、効率的な資金調達を目的としたもので、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程をはじめ各規程に従い、営業債権について営業企画部が全取引先の状況を定期的にモニタリングし、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、経理部は取引相手先ごとに期日及び債権残高の管理を行うとともに、各営業部が取引先と与信額を超過した取引となっている場合、その解決策を聴取することとしております。

連結子会社についても、当社の与信管理規程に準じて同様の管理を行っております。当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表されております。

市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社及び一部の連結子会社は、支払金利の変動リスクを抑制する目的で、一部借入金に対して期間中の利率を固定する中長期固定金利借入にて調達を行い、また、別の一部に対して金利スワップ取引を利用しております。投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引企業）の財務状況を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループ各社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新することなどにより、流動性リスクを管理しております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

前連結会計年度(2018年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	2,826	2,826	
(2)受取手形及び売掛金(純額)	6,176	6,176	
(3)電子記録債権	271	271	
(4)投資有価証券	177	177	
資産計	9,452	9,452	
(1)支払手形及び買掛金	4,097	4,097	
(2)電子記録債務	820	820	
(3)短期借入金	4,196	4,196	
(4)長期借入金	5,697	5,749	51
(5)社債	200	202	2
負債計	15,010	15,065	54
デリバティブ取引			

1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)現金及び預金	2,253	2,253	
(2)受取手形及び売掛金(純額)	6,232	6,232	
(3)電子記録債権	335	335	
(4)投資有価証券	125	125	
資産計	8,946	8,946	
(1)支払手形及び買掛金	3,969	3,969	
(2)電子記録債務	1,175	1,175	
(3)短期借入金	4,629	4,629	
(4)長期借入金	5,935	6,049	114
(5)社債	200	203	3
負債計	15,910	16,028	118
デリバティブ取引			

1年内返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、並びに(3)電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の価格によっており、投資信託は公表されている基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1)支払手形及び買掛金、(2)電子記録債務、並びに(3)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行なった場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(5)社債

当社の発行する社債の時価は市場価格がないため、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるもので、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
非上場株式	572	694

上記については、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	2,826			
受取手形及び売掛金	6,177			
電子記録債権	271			
合計	9,276			

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	2,253			
受取手形及び売掛金	6,233			
電子記録債権	335			
合計	8,822			

4 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年3月31日)

科目	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,196					
社債					200	
長期借入金	2,022	1,441	887	570	232	543
リース債務	152	131	77	37	29	14
合計	6,370	1,573	965	607	462	557

当連結会計年度(2019年3月31日)

科目	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,629					
社債				200		
長期借入金	1,912	1,367	997	611	286	759
リース債務	161	108	71	63	19	9
合計	6,704	1,475	1,068	875	305	768

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(2018年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	176	84	92
小計	176	84	92
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	0	0	0
小計	0	0	0
合計	177	84	92

(注) 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
株式	125	90	34
小計	125	90	34
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
株式	0	0	0
小計	0	0	0
合計	125	91	34

(注) 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(2018年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	697	517	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるもので、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2019年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	733	493	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるもので、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

なお、当社及び国内連結子会社は、2010年10月1日に退職一時金制度の一部と適格退職年金制度について、確定拠出年金制度へ移行しております。

当社及び国内連結子会社が加入していた日本電子回路厚生年金基金は、2017年3月31日付で厚生労働大臣の認可を受け解散いたしました。これに伴い、2017年4月1日付で設立された後継制度である電子回路企業年金基金へ移行しております。

なお、電子回路企業年金基金は総合設立方式であり、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、退職給付に係る会計基準（企業会計審議会：1998年6月16日）注解12（複数事業主制度の企業年金について）により、年金基金への要拠出額を退職給付費用として処理しております。

また、国内連結子会社及び吸収合併した旧国内連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	870	914
勤務費用	56	52
利息費用	1	0
数理計算上の差異の発生額	8	22
退職給付の支払額	23	53
退職給付債務の期末残高	914	937

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	359	423
期待運用収益	7	7
数理計算上の差異の当期発生額	2	0
事業主からの拠出額	74	74
退職給付の支払額	16	30
年金資産の期末残高	423	475

(3) 簡便法を適用した制度の退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	124	128
退職給付費用	12	14
退職給付の支払額	8	11
退職給付に係る負債の期末残高	128	131

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	455	471
年金資産	423	475
	32	4
非積立型制度の退職給付債務	586	597
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	619	593
退職給付に係る負債	619	593
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	619	593

(注) 簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	56	52
利息費用	1	0
期待運用収益	7	7
数理計算上の差異の費用処理額	10	11
過去勤務費用の費用処理額	1	1
簡便法で計算した退職給付費用	12	14
確定給付制度に係る退職給付費用	75	73

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
過去勤務費用	1	1
数理計算上の差異	0	10
合計	1	8

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
未認識過去勤務費用	2	0
未認識数理計算上の差異	60	70
合計	62	71

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
一般勘定	88 %	89 %
債券	6 %	7 %
株式	4 %	2 %
その他	2 %	0 %
合計	100 %	100 %

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
割引率	0.10 %	0.06 %
長期期待運用収益率	1.78 %	0.85 %

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度40百万円、当連結会計年度40百万円であります。

4 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度等への要拠出額は、前連結会計年度33百万円、当連結会計年度34百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

電子回路企業年金基金

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
年金資産の額		4,048
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額		4,001
差引額		47

(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
電子回路企業年金基金	%	11.6 %

(3) 補足説明

電子回路企業年金基金

当連結会計年度における上記(1)の差引額の内容は、年金財政上の未償却過去勤務債務残高415百万円、剰余金462百万円であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は期間8年0ヶ月元利均等償却であります。なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

(注) (1)及び(2)につきましては、電子回路企業年金基金の直近の決算日の数値を用いております。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
(繰延税金資産)		
減損損失	195百万円	188百万円
資産除去債務	43百万円	44百万円
賞与引当金否認額	62百万円	65百万円
夏季賞与支給に伴う法定福利費	9百万円	9百万円
退職給付に係る負債	188百万円	158百万円
未払役員退職慰労金否認額	1百万円	1百万円
投資有価証券評価損否認額	1百万円	0百万円
会員権評価損	13百万円	13百万円
未払事業税否認額	4百万円	6百万円
一括償却資産償却限度超過額	3百万円	3百万円
減価償却超過額	37百万円	38百万円
未実現利益	12百万円	12百万円
税務上の繰越欠損金 (注) 2	263百万円	352百万円
その他	44百万円	56百万円
繰延税金資産小計	880百万円	953百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注) 2		346百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額		389百万円
評価性引当額小計 (注) 1	501百万円	736百万円
繰延税金資産合計	378百万円	217百万円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額	25百万円	7百万円
海外子会社留保金	11百万円	15百万円
固定資産圧縮積立金	6百万円	5百万円
資産除去債務に対応する除去費用	1百万円	1百万円
その他	0百万円	百万円
繰延税金負債合計	44百万円	29百万円
繰延税金資産の純額	334百万円	187百万円

(注) 1. 評価性引当額が234百万円増加しております。この増加の主な内容は、当社において将来減算一時差異等に関する評価性引当額223百万円を追加的に認識したことに伴うものであります。

2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額
当連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金 (a)			27	2	10	311	352
評価性引当額			22	1	10	311	346
繰延税金資産			4	0			(b) 5

(a) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

(b) 税務上の繰越欠損金352百万円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産5百万円を計上しております。当該繰延税金資産5百万円のうち4百万円は当社で計上したものであり、将来の課税所得の十分性を勘案した結果、回収可能と判断し評価性引当額を認識しておりません。

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.8%	30.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4%	0.7%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	14.4%	0.1%
住民税等均等割	2.1%	4.0%
子会社との税率差異	18.7%	20.4%
持分法投資損益	4.1%	21.1%
評価性引当額	74.5%	93.6%
過年度法人税	0.0%	44.1%
連結子会社受取配当金	15.2%	12.4%
その他	1.8%	2.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	83.8%	187.1%

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1 当該資産除去債務の概要

当社グループは、営業所及び事業用資産の一部について、土地又は建物所有者との間で不動産賃借契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しております。また、一部の工場設備について、法令で要求される環境債務に関し資産除去債務を計上しております。その主な内容は、過去に地方条例等に定める指定物質を使用していた工場施設の移転、廃止による土壌調査義務及び工場設備等に充てられたフロン類の回収・破壊義務であります。

2 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を、当該資産の減価償却期間に応じて10年から38年と見積り、割引率は0.290%から2.155%を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

3 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
期首残高	143百万円	145百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	百万円	百万円
時の経過による調整額	1百万円	1百万円
資産除去債務の履行による減少額	百万円	百万円
その他	0百万円	0百万円
期末残高	145百万円	147百万円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメント情報は、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業部門（一部の製品・サービスについては子会社）を置き、各事業部門及び子会社は、取り扱う製品・サービスに係る国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を行っております。

従って、当社グループは、事業部門及び子会社を基礎とする事業セグメントから構成されており、製品・サービス別に集約した「プリント配線板事業」、「検査機・ソリューション事業」の2つを報告セグメントとしております。「プリント配線板事業」は、設計・試作から量産品までプリント配線板の製造・販売を行っております。「検査機・ソリューション事業」は、プリント配線板外観検査機及び各種ソリューションビジネス商品の開発・販売及び保守サービスを行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結損益及び包 括利益計算書 計上額 (注)3
	プリント 配線板事業	検査機・ソリ ューション事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	27,540	893	28,434	88	28,522		28,522
セグメント間の内部 売上高又は振替高		37	37	215	253	253	
計	27,540	931	28,472	303	28,775	253	28,522
セグメント利益 又は損失()	358	84	442	4	437	1	438
その他の項目 減価償却費	971	2	974	2	976	12	964

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額1百万円には、セグメント間取引消去が含まれております。

その他の項目の減価償却費の調整額12百万円には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益又は損失()は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 当社は報告セグメントに資産を配分しておりません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結損益及び包 括利益計算書 計上額 (注)3
	プリント 配線板事業	検査機・ソリ ューション事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	27,571	955	28,527	104	28,632		28,632
セグメント間の内部 売上高又は振替高		70	70	229	300	300	
計	27,571	1,026	28,598	334	28,932	300	28,632
セグメント利益 又は損失()	308	81	389	9	379	16	362
その他の項目 減価償却費	1,124	4	1,128	1	1,130	15	1,115

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額16百万円には、セグメント間取引消去が含まれております。

その他の項目の減価償却費の調整額15百万円には、セグメント間取引消去が含まれております。

3 セグメント利益又は損失()は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 当社は報告セグメントに資産を配分しておりません。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	プリント配線板事業	検査機・ソリューション事業	その他	合計
外部顧客への売上高	27,540	893	88	28,522

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国・香港	その他	合計
11,569	13,893	3,060	28,522

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国・香港	合計
3,986	4,438	8,425

3 主要な顧客ごとの情報

連結損益及び包括利益計算書の売上高の10%以上を占める特定の顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	プリント配線板事業	検査機・ソリューション事業	その他	合計
外部顧客への売上高	27,571	955	104	28,632

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	中国・香港	その他	合計
12,162	13,599	2,870	28,632

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国・香港	合計
4,160	4,261	8,422

3 主要な顧客ごとの情報

連結損益及び包括利益計算書の売上高の10%以上を占める特定の顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	プリント配線板事業	検査機・ソリューション事業	その他	合計
減損損失	11			11

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員に 準ずる者	白井 治夫			当社創業者 名誉顧問	(被所有) 直接 2.7	顧問契約	顧問料 (注)	11		

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 当社創業者としての経営全般のサポート及びアドバイスでの関与に基づき、顧問料を決めております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当事項はありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は科恵白井電路有限公司であります。

なお、科恵白井電路有限公司の100%製造子会社である科恵白井(佛岡)電路有限公司が当社の連結財務諸表に重要な影響を及ぼすため、持分法による投資損益の計算には科恵白井(佛岡)電路有限公司の損益を科恵白井電路有限公司の損益に含めており、その要約財務情報は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	科恵白井(佛岡)電路有限公司	
	前連結会計年度	当連結会計年度
流動資産合計	5,498	5,806
固定資産合計	1,180	2,321
流動負債合計	4,771	5,814
固定負債合計		
純資産合計	1,907	2,313
売上高	10,190	11,230
税引前当期純利益金額	319	682
当期純利益金額	211	573

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	256円71銭	215円34銭
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純損失()	3円88銭	16円23銭

(注) 1 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失() (百万円)	54	226
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失() (百万円)	54	226
普通株式の期中平均株式数 (株)	13,974,618	13,974,601

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	3,720	3,150
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	133	141
(うち非支配株主持分 (百万円))	(133)	(141)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	3,587	3,009
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数 (株)	13,974,618	13,974,587

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、2019年5月20日開催の取締役会において、次のとおり固定資産の取得（連結子会社における新工場の建設）を決議いたしました。

1 設備投資の目的

当社海外主力の自社工場である白井電子科技(珠海)有限公司 珠海工場は、近年のカーエレクトロニクス分野の電装化に伴う受注拡大により、品質要求の高い車載関連の基板をメインに生産する工場に成長し、操業から約10年が経過いたしました。今後もカーエレクトロニクス分野は自動運転技術をはじめ、ますます電装化が進み市場の拡大が見込まれ、また取引先からもより高い品質レベルで安定した供給体制が求められることが予想されることなどから、現在の工場敷地内に新工場（第2工場）を建設することとし、更なる海外事業の拡大を図ってまいります。

2 設備投資の内容

- (1) 名称（仮称） 白井電子科技(珠海)有限公司 第2工場
- (2) 所在地 中国広東省珠海市三78鎮定湾七路2号
- (3) 延床面積 17,600㎡
- (4) 投資総額 約2,900百万円

3 設備の導入時期

- (1) 工事着工予定年月 2019年8月
- (2) 操業開始予定年月 2021年1月

4 当該設備が営業・生産活動に及ぼす重要な影響

当該固定資産の取得による2020年3月期の業績に与える影響は軽微であります。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
シライ電子工業株式会社	シライ電子工業株式会社第1回無担保社債(株式会社りそな銀行保証付及び適格機関投資家限定)	2018年 2月26日	200	200 ()	0.48	無担保社債	2023年 2月24日

(注) 1 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
			200	

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,196	4,629	3.1	
1年以内に返済予定の長期借入金	2,022	1,912	2.1	
1年以内に返済予定のリース債務	152	161	3.1	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	3,675	4,022	1.7	2020年8月31日 ~2030年7月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	290	272	2.0	2020年2月28日 ~2026年12月21日
其他有利子負債				
計	10,336	10,999		

(注) 1 平均利率については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の返済期限は、決算日が12月31日である海外連結子会社の残高を当期末残高に含めているため、2020年2月28日となっております。

3 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後の返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	1,367	997	611	286	759
リース債務	108	71	63	19	9

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	6,808	13,994	21,829	28,632
税金等調整前四半期(当期)純利益 又は税金等調整前四半期純損失() (百万円)	90	268	36	250
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純損失() (百万円)	269	515	291	226
1株当たり四半期(当期)純損失() (円)	19.25	36.89	20.88	16.23

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり四半期純損失() (円)	19.25	17.63	16.01	4.65

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	726	817
受取手形	4 216	4 133
電子記録債権	4 271	4 335
売掛金	2 2,789	2 2,763
製品	747	928
仕掛品	225	249
原材料及び貯蔵品	164	168
前渡金	2	19
前払費用	23	31
その他	2 348	2 323
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	5,515	5,770
固定資産		
有形固定資産		
建物	1 1,197	1 1,134
構築物	97	79
機械及び装置	443	424
工具、器具及び備品	136	191
土地	1 1,361	1 1,361
リース資産	279	316
その他	0	1
有形固定資産合計	3,515	3,510
無形固定資産		
ソフトウェア	172	135
リース資産	0	0
ソフトウェア仮勘定		5
その他	11	11
無形固定資産合計	183	153
投資その他の資産		
投資有価証券	177	125
関係会社株式	2,756	2,756
出資金	0	0
関係会社長期貸付金	589	468
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	30	23
繰延税金資産	257	117
投資不動産	1 10	
その他	59	60
貸倒引当金	11	11
投資その他の資産合計	3,870	3,541
固定資産合計	7,569	7,204
資産合計	13,085	12,974

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	4 250	4 227
買掛金	2 676	2 740
電子記録債務	4 820	4 1,175
短期借入金	1 849	1 1,013
1年内返済予定の長期借入金	1, 5, 6 1,224	1, 5, 6 1,267
リース債務	74	88
未払金	2 418	2 247
未払費用	128	243
未払法人税等	24	29
前受金	24	87
預り金	42	43
賞与引当金	165	167
その他	4 562	4 37
流動負債合計	5,261	5,369
固定負債		
社債	200	200
長期借入金	1, 5, 6 2,642	1, 5, 6 2,899
リース債務	177	212
退職給付引当金	487	450
資産除去債務	143	145
長期未払金	148	80
固定負債合計	3,799	3,987
負債合計	9,061	9,357
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,361	1,361
資本剰余金		
資本準備金	1,476	1,476
資本剰余金合計	1,476	1,476
利益剰余金		
利益準備金	36	36
その他利益剰余金		
別途積立金	410	410
繰越利益剰余金	672	305
利益剰余金合計	1,118	752
自己株式	0	0
株主資本合計	3,956	3,590
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	67	27
評価・換算差額等合計	67	27
純資産合計	4,024	3,617
負債純資産合計	13,085	12,974

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
売上高	1 12,260	1 12,746
売上原価	1 10,507	1 10,795
売上総利益	1,752	1,951
販売費及び一般管理費	1, 2 2,122	1, 2 2,202
営業損失()	370	251
営業外収益		
受取利息	1 22	1 27
受取配当金	1 236	1 105
経営指導料	1 22	1 22
その他	1 58	1 58
営業外収益合計	339	212
営業外費用		
支払利息	63	74
為替差損	18	
災害による損失	15	
その他	8	11
営業外費用合計	105	86
経常損失()	136	124
特別利益		
固定資産売却益	0	0
受取保険金		14
特別利益合計	0	14
特別損失		
固定資産処分損	33	13
減損損失	11	
特別損失合計	45	13
税引前当期純損失()	182	123
法人税、住民税及び事業税	16	15
法人税等調整額	230	157
法人税等合計	246	173
当期純損失()	428	296

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	利益剰余金合計	
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,361	1,476	1,476	36	410	1,170	1,617
当期変動額							
剰余金の配当						69	69
当期純損失()						428	428
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計						498	498
当期末残高	1,361	1,476	1,476	36	410	672	1,118

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	0	4,455	40	40	4,496
当期変動額					
剰余金の配当		69			69
当期純損失()		428			428
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			26	26	26
当期変動額合計		498	26	26	471
当期末残高	0	3,956	67	67	4,024

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,361	1,476	1,476	36	410	672	1,118
当期変動額							
剰余金の配当						69	69
当期純損失()						296	296
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							
当期変動額合計						366	366
当期末残高	1,361	1,476	1,476	36	410	305	752

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	0	3,956	67	67	4,024
当期変動額					
剰余金の配当		69			69
当期純損失()		296			296
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			40	40	40
当期変動額合計	0	366	40	40	406
当期末残高	0	3,590	27	27	3,617

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

総平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

総平均法による原価法

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 製品

総平均法

但し、検査機、金型及び設計代については個別法

(2) 原材料

総平均法

(3) 仕掛品

総平均法

(4) 貯蔵品

最終仕入原価法

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

2007年3月31日以前に取得したもの

旧定額法によっております。

2007年4月1日以降に取得したもの

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 8年～38年

機械及び装置 4年～6年

工具、器具及び備品 2年～15年

また、2007年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌年から5年間で均等償却する方法によっております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

但し、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しておりません。

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に充てるため、当事業年度に負担すべき実際支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（9年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替変動リスクのヘッジについて振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を、金利スワップについて特例処理の要件を満たしている場合には、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段・・・為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象・・・外貨建金銭債務、借入金の支払利息

ヘッジ方針

内部規程に基づき、外貨建取引の為替相場変動リスクを回避する目的で為替予約を行い、また、借入金の金利変動リスクを回避する目的で、金利スワップを実需の範囲内で利用しております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累計を半期毎に比較し、両者の変動額を基礎にして有効性を評価しております。

なお、振当処理によっている為替予約、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。

(3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(4) 記載金額は百万円未満切捨てにより表示しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」68百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」257百万円に含めて表示しております。

また、税効果会計関係注記において、税効果会計基準一部改正第4項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(1)(評価性引当額の合計額を除く。)に記載された内容を追加しております。ただし、当該内容のうち前事業年度に係る内容については、税効果会計基準一部改正第7項に定める経過的な取扱いに従って記載しておりません。

(貸借対照表)

前事業年度において、「流動資産」の「その他」に含めて表示しておりました「前渡金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記しております。なお、前事業年度の「前渡金」は2百万円であります。

前事業年度において、区分掲記して表示しておりました「関係会社短期貸付金」(当事業年度257百万円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「流動資産」の「その他」に含めて表示しております。

前事業年度において、区分掲記して表示しておりました「車両運搬具」(当事業年度1百万円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「有形固定資産」の「その他」に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産

担保に供している資産及びこれに対する債務は次のとおりであります。

(担保に供している資産)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
建物	932百万円	893百万円
土地	1,148百万円	1,148百万円
投資不動産	10百万円	百万円
計	2,091百万円	2,041百万円

(上記に対する債務)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期借入金	849百万円	1,013百万円
1年内返済予定の長期借入金	1,024百万円	1,067百万円
長期借入金	2,517百万円	2,724百万円
計	4,391百万円	4,806百万円

2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権及び金銭債務の金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
短期金銭債権	35百万円	37百万円
短期金銭債務	254百万円	248百万円

3 保証債務

次のとおり関係会社に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
銀行借入に対する保証		
白井電子科技(香港)有限公司	3,364百万円	3,364百万円
白井電子科技(珠海)有限公司	956百万円	999百万円
リース契約に対する保証		
白井電子科技(珠海)有限公司	168百万円	85百万円
取引に関する保証		
白井電子科技(香港)有限公司	212百万円	222百万円
リース会社等からのファイナンスに対する保証		
白井電子科技(香港)有限公司	57百万円	111百万円
白井電子科技(珠海)有限公司	26百万円	12百万円
出資に対する保証		
Shirai Electronics Trading (Thailand) Co.,Ltd.	7百万円	7百万円

4 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
受取手形	28百万円	18百万円
電子記録債権	7百万円	16百万円
支払手形	61百万円	57百万円
電子記録債務	250百万円	303百万円
設備支払手形	3百万円	0百万円
設備電子記録債務	5百万円	百万円

5 コミットメント期間付タームローン契約

前事業年度 (2018年3月31日)		当事業年度 (2019年3月31日)	
<p>当社は、三上事業所新棟の建設資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とシンジケート方式によるコミットメント期間付タームローン契約を締結しております。</p> <p>当事業年度末におけるコミットメント期間付タームローン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。</p>		<p>当社は、三上事業所新棟の建設資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とシンジケート方式によるコミットメント期間付タームローン契約を締結しております。</p> <p>当事業年度末におけるコミットメント期間付タームローン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。</p>	
コミットメント期間付タームローンの総額	1,400百万円	コミットメント期間付タームローンの総額	1,400百万円
借入実行残高	868百万円	借入実行残高	1,400百万円
差引額	532百万円	差引額	百万円

6 財務制限条項

前事業年度 (2018年3月31日)		当事業年度 (2019年3月31日)	
<p>当社は、三上事業所の新棟建設に伴う投資資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とタームローン契約を締結しており、1年内返済予定の長期借入金のうち36百万円及び長期借入金のうち831百万円には、下記の財務制限条項が付されております。</p> <p>(1) 各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。</p> <p>(2) 各年度の決算期における連結の損益計算書に示される当期経常損益から営業外収益及び営業外費用に計上される為替差損益を控除した金額が2期連続して損失とならないようにする。</p>		<p>当社は、三上事業所の新棟建設に伴う投資資金を安定的に調達するため、取引銀行4行とタームローン契約を締結しており、1年内返済予定の長期借入金のうち116百万円及び長期借入金のうち1,225百万円には、下記の財務制限条項が付されております。</p> <p>(1) 各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表における純資産の部の金額を前年同期比75%以上に維持する。</p> <p>(2) 各年度の決算期における連結の損益計算書に示される当期経常損益から営業外収益及び営業外費用に計上される為替差損益を控除した金額が2期連続して損失とならないようにする。</p>	

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	188百万円	187百万円
仕入高	3,283百万円	2,954百万円
営業取引以外の取引高		
受取配当金	233百万円	101百万円
上記以外の営業取引以外の取引高	69百万円	78百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
給料及び手当	637百万円	683百万円
支払手数料	218百万円	237百万円
運賃及び荷造費	211百万円	221百万円
おおよその割合		
販売費	43.7%	44.3%
一般管理費	56.3%	55.7%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式2,139百万円、関連会社株式616百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式2,139百万円、関連会社株式616百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
(繰延税金資産)		
減損損失	195百万円	188百万円
資産除去債務	43百万円	44百万円
未払役員退職慰労金否認額	1百万円	1百万円
退職給付引当金否認額	148百万円	137百万円
未払事業税	4百万円	6百万円
賞与引当金否認額	50百万円	51百万円
会員権評価損否認額	12百万円	12百万円
投資有価証券評価損否認額	0百万円	0百万円
一括償却資産償却限度超過額	2百万円	2百万円
減価償却超過額	36百万円	38百万円
夏季賞与支給に伴う法定福利費	8百万円	8百万円
税務上の繰越欠損金	251百万円	335百万円
その他	16百万円	12百万円
繰延税金資産小計	773百万円	839百万円
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	百万円	330百万円
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	百万円	382百万円
評価性引当額小計	489百万円	713百万円
繰延税金資産合計	283百万円	126百万円
(繰延税金負債)		
資産除去債務に対応する除去費用	1百万円	1百万円
其他有価証券評価差額金	25百万円	7百万円
繰延税金負債合計	26百万円	8百万円
繰延税金資産の純額	257百万円	117百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別内訳

前事業年度及び当事業年度は、税引前当期純損失を計上しているため記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,197	57	0	119	1,134	4,014
	構築物	97	0	9	8	79	422
	機械及び装置	443	71	0	90	424	1,540
	工具、器具及び備品	136	121	3	61	191	669
	土地	1,361				1,361	
	リース資産	279	113		75	316	189
	建設仮勘定		248	248			
	その他	0	1		0	1	9
	計	3,515	613	262	356	3,510	6,845
無形固定資産	ソフトウェア	172	1		37	135	
	リース資産	0			0	0	
	ソフトウェア仮勘定		7	1		5	
	その他	11			0	11	
	計	183	8	1	37	153	

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	三上事業所	三上B棟 AHU、ファンコイル	配管設備工事 他	32百万円
機械及び装置	三上事業所	熱風循環式乾燥装置M 515 AS		12百万円
	守山工場	高精度穴明機N 6 200		23百万円
工具、器具及び備品	金型	金型取得		15百万円
	三上事業所	デシカント外気処理機 他		66百万円
リース資産	三上事業所	ソルダーレジスト用露光装置 EXP-2700S-H		48百万円
	PDS本部	SR用LIシステム		65百万円

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

構築物	三上事業所	駐車場大型テント	9百万円
工具、器具及び備品	金型除却		2百万円

3 有形固定資産の車両運搬具は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より有形固定資産のその他に含めております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	12			12
賞与引当金	165	167	165	167

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とする。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.shiraidenshi.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書	事業年度 (第49期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月27日 近畿財務局長に提出
(2) 内部統制報告書及びその添付書類	事業年度 (第49期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月27日 近畿財務局長に提出
(3) 四半期報告書及び確認書	(第50期第1四半期)	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	2018年8月10日 近畿財務局長に提出
	(第50期第2四半期)	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	2018年11月14日 近畿財務局長に提出
	(第50期第3四半期)	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	2019年2月14日 近畿財務局長に提出
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。		2018年6月29日 近畿財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2019年6月26日

シライ電子工業株式会社
取締役会 御中

PwC京都監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	田	村	透
指定社員 業務執行社員	公認会計士	江	口	亮

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているシライ電子工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シライ電子工業株式会社及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、シライ電子工業株式会社の2019年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、シライ電子工業株式会社が2019年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月26日

シライ電子工業株式会社
取締役会 御中

PwC京都監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田 村 透

指定社員
業務執行社員 公認会計士 江 口 亮

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているシライ電子工業株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、シライ電子工業株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。